

IN THE U.S. PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of

Takahiro KAKUMARU et al.

Conf.

Application No. NEW NON-PROVISIONAL

Group

Filed February 24, 2004

Examiner

RADIO TERMINAL UNIT AND RADIO COMMUNICATION SYSTEM

CLAIM TO PRIORITY

Assistant Commissioner for Patents
P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

February 24, 2004

Sir:

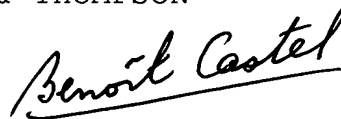
Applicant(s) herewith claim(s) the benefit of the priority filing date of the following application(s) for the above-entitled U.S. application under the provisions of 35 U.S.C. § 119 and 37 C.F.R. § 1.55:

| <u>Country</u> | <u>Application No.</u> | <u>Filed</u> |
|----------------|------------------------|-------------------|
| JAPAN | 2003-046991 | February 25, 2003 |

Certified copy(ies) of the above-noted application(s) is(are) attached hereto.

Respectfully submitted,

YOUNG & THOMPSON



Benoit Castel, Reg. No. 35,041
745 South 23rd Street
Arlington, VA 22202
Telephone (703) 521-2297
Telefax (703) 685-0573
703) 979-4709

BC/ma

Attachment(s): 1 Certified Copy(ies)

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 3 年 2 月 2 5 日
Date of Application:

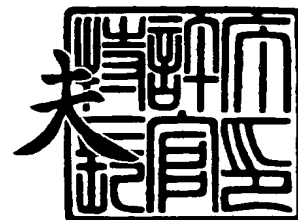
出 願 番 号 特 願 2 0 0 3 - 0 4 6 9 9 1
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 3 - 0 4 6 9 9 1]

出 願 人 日 本 電 気 株 式 有 限 公 司
Applicant(s):

2 0 0 4 年 1 月 2 6 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康 夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 49200282

【提出日】 平成15年 2月25日

【あて先】 特許庁長官 太田 信一郎 殿

【国際特許分類】 H04B 7/26
H04L 7/00
H04L 12/28

【発明の名称】 無線端末装置および無線通信システム

【発明者】
【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目 7 番 1 号 日本電気株式会社内
【氏名】 角丸 貴洋

【発明者】
【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目 7 番 1 号 日本電気株式会社内
【氏名】 森本 伸一

【特許出願人】
【識別番号】 000004237
【住所又は居所】 東京都港区芝五丁目 7 番 1 号
【氏名又は名称】 日本電気株式会社

【代理人】
【識別番号】 100062476
【住所又は居所】 東京都港区赤坂一丁目 3 番 1 9 号 芳明ビル
【弁理士】
【氏名又は名称】 原田 信市
【電話番号】 03-3560-7055

【手数料の表示】
【予納台帳番号】 011637
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】
【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9303566

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 無線端末装置および無線通信システム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

パワーセーブモードで動作して、無線基地局に対して配送を促す制御パケットである P S - P o l l を送信することにより、該無線基地局にバッファされているパケットを受信する無線端末装置において、通信アプリケーションの動作モードに応じて前記 P S - P o l l の送信タイミングを可変する P S - P o l l 可変手段を備えたことを特徴とする無線端末装置。

【請求項 2】

P S - P o l l 可変手段は、通信アプリケーションからのデータ送信後に P S - P o l l を送信することを特徴とする請求項 1 記載の無線端末装置。

【請求項 3】

P S - P o l l 可変手段は、通信アプリケーションのリアルタイム要求の有り無しを判断し、リアルタイム要求の有りの場合は、P S - P o l l を送信して当該無線端末装置の通信制御部に対し当該無線端末装置の無線インターフェース部の電源を投入させて無線基地局にバッファされているパケットの受信動作を行わせ、リアルタイム要求の無しの場合は、通信制御部に対し無線インターフェース部の電源を切断させて無線基地局からのビーコンにしたがった間欠受信動作を行わせることを特徴とする請求項 1 又は 2 記載の無線端末装置。

【請求項 4】

通信制御部は、無線基地局にバッファされているパケットがなくなるまで P S - P o l l にしたがったパケットを受信し、なくなったとき無線インターフェース部の電源を切断することを請求項 3 記載の無線端末装置。

【請求項 5】

P S - P o l l 可変手段は、通信アプリケーションのデータに付加されているリアルタイム要求の有り無しの情報からリアルタイム要求の有り無しを決定することを特徴とする請求項 3 又は 4 記載の無線端末装置。

【請求項 6】

PS-Poll 可変手段は、通信アプリケーションの切替を判断し、切替ごとにリアルタイム要求の有り無しを決定することを特徴とする請求項 3、4 又は 5 記載の無線端末装置。

【請求項 7】

通信制御部は、PS-Poll 可変手段においてリアルタイム要求無しから有りに変わった場合、ビーコン間隔とは関係ないタイマ値で無線インターフェース部を制御して PS-Poll を送信することを特徴とする請求項 6 記載の無線端末装置。

【請求項 8】

通信アプリケーションごとにあらかじめ設定されている省電力の割合を判断するパラメータ決定手段を有し、通信制御部は、該パラメータ決定手段にて決定された省電力の割合に応じて無線インターフェース部を制御するタイマ値を可変することを請求項 7 記載の無線端末装置。

【請求項 9】

通信アプリケーションごとにあらかじめ設定されている優先度を判断するパラメータ決定手段を有し、通信制御部は、該パラメータ決定手段にて決定された優先度に応じて無線インターフェース部を制御するタイマ値を可変することを請求項 7 記載の無線端末装置。

【請求項 10】

バッテリー残量を検出するバッテリー残量検出部を備え、通信制御部は検出されたバッテリー残量に伴いタイマ値の最小値を設定することを特徴とする請求項 7、8 又は 9 記載の無線端末装置。

【請求項 11】

請求項 1 ないし 10 のいずれかに記載の無線端末装置と無線基地局にて構成された無線ネットワークシステム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、無線端末装置、およびこれを含む無線通信システム、特に伝送媒体

に無線を利用して無線端末装置に接続される無線基地局が L A N (Local Area Network) 回線または W A N (Wide Area Network) 回線に接続された無線通信システムに関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

従来の伝送媒体に無線を利用した無線 L A N システムにおいて、無線端末装置の省電力動作は無線基地局からのビーコンを間欠受信することにより利用され、また同報パケット (マルチキャストおよびブロードキャスト) を受信するために少なくとも D T I M 付きビーコンを受信する必要があった。

【 0 0 0 3 】

すなわち、無線端末装置はパワーセーブモードを設定すると、無線基地局から送信されるビーコンを取得して各情報要素を展開し、ビーコンに含まれるビーコン間隔および配送トラフィック表示マップ (Delivery Traffic Indication Map、以下「D T I M」と記す) 付きビーコン間隔を基準に間欠受信を行う。

【 0 0 0 4 】

パワーセーブモードで動作する無線端末装置は、その動作を無線基地局へフレーム制御フィールドを用いて通知し、無線基地局はパワーセーブモードで動作する無線端末装置宛のパケットは無線基地局内のメモリにバッファし、ビーコン内のトラフィック表示マップ (Traffic Indication Map、以下「T I M」と記す) にてパケットがバッファされている旨を無線端末装置へ通知する。

【 0 0 0 5 】

このように、パワーセーブモードで動作する無線端末装置は、無線基地局からのビーコンを間欠受信しており、受信したビーコンを受信後、情報要素を展開し、T I M にて自宛のパケットがバッファされていることを認識すると、無線基地局に対して、無線基地局に対して配送を促す制御パケット (以下「P S - P o l l」と記す) を送信し、無線基地局にバッファされている自宛のパケットを受信する。

【 0 0 0 6 】

また、無線端末装置への同報パケット (マルチキャストおよびブロードキャス

ト) は、DTIM付きビーコンの後に続けて送信され、無線端末装置は同報パケットを受信するために少なくともDTIMを含むビーコンを受信する。

【0007】

しかし、無線端末装置の省電力はトラフィックが無い場合、無線基地局からのビーコンを受信する間隔を長くすることにより達成されるが、受信間隔を長くすると、自宛のパケットが発生した場合にTIMの取得が遅くなり、自宛のパケットの受信に遅延が発生する問題がある。

【0008】

また、無線基地局はパワーセーブモードで動作する無線端末装置宛のパケットをメモリにバッファするため、パワーセーブモードで動作する無線端末装置の受信間隔を長くすると、無線端末装置宛のパケットの配送が遅れ、長い時間、無線基地局のメモリに保持させておく必要があった。

【0009】

さらに、音声や動画などのリアルタイム通信においてパワーセーブモードの無線端末装置が送受信を繰り返す場合に、長い受信間隔で動作すると、無線端末装置宛のパケットは一度無線基地局にバッファされ、次の受信周期で配送されるため、パケットに遅延が発生する問題がある。特に、音声や動画なのでリアルタイムの配送を行う通信において、受信するパケットに遅延が発生し、データの再現性に問題が生じることがあった。

【0010】

パワーセーブモードで動作する無線端末装置は、無線基地局が送信するDTIM付きビーコンの送信タイミングに合わせて間欠受信するため、無線端末装置側で間欠受信タイミングを決定できないという問題がある。

【0011】

また、一つの無線基地局に対して複数の無線端末装置が接続し、各無線端末装置がパワーセーブモードで動作する場合、各無線端末装置はそれぞれ同じ間欠受信タイミングすなわちDTIM付きビーコンの送信タイミングでしか間欠受信動作できないという問題もある。

【0012】

さらに、同報パケットは D T I M 付きビーコンの後に送信されるため、D T I M 付きビーコンを無視した長い受信間隔のパワーセーブモードで動作する無線端末装置では、同報パケットを受信できないことで起こる、例えば、パワーセーブモードで動作中の無線端末装置の物理アドレスを問い合わせるための物理アドレス解決プロトコルメッセージ（A R P）がネットワーク内に生起した場合、パワーセーブモードで動作する無線端末装置への配信に遅延が発生し、再送による帯域圧迫の問題があった。

【 0 0 1 3 】

また、無線 L A N による通信において、データの送信時に衝突を回避するために C S M A / C A (carrier sense multiple access protocol with collision avoidance) 手順が実行されるが、通信しているアプリケーションによらず、パワーセーブモードで動作中に無線基地局にバッファされているパケットを受信するために、無線基地局に対してパケットの送信要求を出す P S - P o l l はすべて同じ D I F S (Distributed Interframe space) が用いられているため、例えば、音声通信などのリアルタイム性が要求される通信において、遅延をできるだけ抑え、優先的に送信権を与えるといったことは出来ないという問題もある。

【 0 0 1 4 】

さらには、送信時に、送信権が与えられた後に実際に送信できるまでにあるランダム時間だけ待ってから送信するバックオフアルゴリズムが用いられているため、送信データの内容によらずランダム時間だけ待つことになり、音声通信などのリアルタイム性が要求される通信において、遅延をなるべく抑えようと思っても出来ないという問題もある。

【 0 0 1 5 】

これらの問題を解決するために、本発明者らは、次のような無線端末装置及びそれを用いた無線通信システムを先に提案し、特許出願（特願 2 0 0 2 - 2 9 1 0 6 3）をしている。この無線通信システムは、無線端末装置と、L A N 回線または W A N 回線に接続された無線基地局と、同じく L A N 回線または W A N 回線に接続された端末装置とから構成されており、その動作の概略を図 1 4 のタイムチャートにて説明する。

【0 0 1 6】

同図において、無線端末装置 6 1 0、6 2 0、6 3 0 は無線基地局 6 0 0 に帰属しており、無線基地局 6 0 0 は間欠受信動作を行っている無線端末装置に対してのパケットを一旦バッファし、無線端末装置からの P S - P o l l (無線基地局に対して配送を促す制御パケット) を受け取ると、その無線端末装置に対するパケットを送信する動作を行う。

【0 0 1 7】

無線端末装置 6 1 0、6 2 0、6 3 0 のそれぞれは、無線基地局 6 0 0 が一定間隔で定期的に送信しているビーコンの倍数に同期してそれぞれ異なる間隔で間欠受信動作を行う。無線端末装置 6 1 0、6 2 0、6 3 0 の間欠受信間隔は、各無線端末装置上で動作している通信アプリケーションの動作モードにより間欠受信間隔が設定される。動作している通信アプリケーションは、例えば無線端末装置 6 1 0 が W E B プラウザ、無線端末装置 6 2 0 がチャット、無線端末装置 6 3 0 が V o I P (Voice over Internet Protocol) とする。間欠受信間隔は、ビーコン間隔から D T I M (Delivery Traffic Indication Map) 付きビーコン間隔の間で D T I M 付きビーコン間隔の公約数の中から選択される。つまり、最も短くてビーコン間隔となり、最も長くて D T I M 付きビーコン間隔となる。これにより、通信アプリケーションの動作モードと連携して無線端末装置の間欠受信間隔を変更できるため、無線端末装置の省電力制御を細かく行うことができる。

【0 0 1 8】

また、無線端末装置 6 1 0、6 2 0、6 3 0 は、無線基地局 6 0 0 に対して送信する P S - P o l l の優先度を保持することができる。この優先度は、無線端末装置上で動作している通信アプリケーションの動作モードにより設定される。これにより、音声などのリアルタイム通信のパケットを優先して送信することができるため、遅延を削減することで音声品質の向上を図ることができる。

【0 0 1 9】**【特許文献 1】**

特開平 9 - 1 6 2 7 9 8 号公報 (図 1 4、図 2 0)

【0 0 2 0】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、この先行技術では、ビーコンの受信をキーとしてP S-P o l lを無線基地局に対して送信し、自無線端末装置宛のパケットを受信するため、一つの無線基地局に複数の無線端末装置が接続されており、かつ、リアルタイム性の要求されるV o I P (Voice over Internet Protocol) などの通信アプリケーションが複数の無線端末装置で動作している場合、ビーコン毎に複数の無線端末装置からP S-P o l lが送信されることになり、送信権が得られ実際に送信するまでに待つ時間が増加する可能性が高くなってしまう。その結果、遅延が大きくなってしまい、音声品質に影響を及ぼすという問題は避けられない。

【0021】

本発明は、特に伝送媒体に無線を利用して無線端末装置に接続される無線基地局がL A N (Local Area Network) 回線またはW A N (Wide Area Network) 回線に接続された無線通信システムにおいて、無線端末装置の省電力化や、音声通信などのリアルタイム性が要求される通信アプリケーションの通信品質の向上、および複数の無線端末装置が存在する場合に起こりやすい送信待機時間の低減とともに図ることができるようにした、無線端末装置および無線通信システムを提供することである。

【0022】**【課題を解決するための手段】**

本発明は、パワーセーブモードで動作して、無線基地局に対して配送を促す制御パケットであるP S-P o l lを送信することにより、該無線基地局にバッファされているパケットを受信する無線端末装置において、通信アプリケーションの動作モードに応じてP S-P o l lの送信タイミングを可変するP S-P o l l可変手段を備えたことを特徴とする。

【0023】

好ましくは次のような形態とする。

P S-P o l l可変手段は、通信アプリケーションからのデータ送信後にP S-P o l lを送信する。

【0024】

PS-Poll 可変手段は、通信アプリケーションのリアルタイム要求の有り無しを判断し、リアルタイム要求の有りの場合は、PS-Poll を送信して当該無線端末装置の通信制御部に対し当該無線端末装置の無線インターフェース部の電源を投入させて無線基地局にバッファされているパケットの受信動作を行わせ、リアルタイム要求の無しの場合は、通信制御部に対し無線インターフェース部の電源を切断させて無線基地局からのビーコンにしたがった間欠受信動作を行わせる。

【0025】

通信制御部は、無線基地局にバッファされているパケットがなくなるまで PS-Poll にしたがったパケットを受信し、なくなったとき無線インターフェース部の電源を切断する。

【0026】

PS-Poll 可変手段は、通信アプリケーションのデータに付加されているリアルタイム要求の有り無しの情報からリアルタイム要求の有り無しを決定する。

【0027】

PS-Poll 可変手段は、通信アプリケーションの切替を判断し、切替ごとにリアルタイム要求の有り無しを決定する。

【0028】

通信制御部は、PS-Poll 可変手段においてリアルタイム要求無しから有りに変わった場合、ビーコン間隔とは関係ないタイマ値で無線インターフェース部を制御して PS-Poll を送信する。

【0029】

通信アプリケーションごとにあらかじめ設定されている省電力の割合を判断するパラメータ決定手段を有し、通信制御部は、該パラメータ決定手段にて決定された省電力の割合に応じて無線インターフェース部を制御するタイマ値を可変する。

【0030】

通信アプリケーションごとにあらかじめ設定されている優先度を判断するパラ

メータ決定手段を有し、通信制御部は、該パラメータ決定手段にて決定された優先度に応じて無線インターフェース部を制御するタイマ値を可変する。

【0031】

バッテリー残量を検出するバッテリー残量検出部を備え、通信制御部は検出されたバッテリー残量に伴いタイマ値の最小値を設定する。

【0032】

【発明の実施の形態】

図1を参照して本発明を概説すると、無線基地局100は、該無線基地局100に帰属して間欠受信動作を行っている無線端末装置110、120に対しての packets を一旦バッファし、無線端末装置110、120からの送信要求を受け取ると、その無線端末装置に対する packets を送信する動作を行う。

【0033】

無線端末装置110、120は、各無線端末装置上で動作している通信アプリケーションにおいて発生する送信データのタイミングに同期して送受信可能状態となり、各無線端末装置で発生した送信データを送信後、無線基地局100にバッファされている packets を要求するために P S - P o l l を続けて送信する動作を行う。この時、無線基地局100に自無線端末装置宛の packets がバッファされている場合は、バッファされているデータを受信する。ここで、各無線端末装置上で動作している通信アプリケーションにおいて発生する送信データのタイミングは、V o I P のようにリアルタイム性の要求される通信を行う場合、ある一定間隔で packets が生成されるため、例えば20m秒間隔で packets が生成されると、20m秒間隔で P S - P o l l を送信することになる。

【0034】

よって、無線基地局100が定期的送信するビーコンに同期した間欠受信による方法では、ビーコン間隔を20m秒などのように細かく設定する必要があるが、ビーコン間隔200m秒のように間隔が大きくなることで受信における遅延が発生する可能性が高くなるが、本発明によればそれらの影響を最大限なくすることが可能となる。また、ビーコン受信に同期して P S - P o l l を送信する方法では、ビーコン直後受信に複数の無線端末装置から配送を促す P S - P o l l

が同時に発生するために、送信待ちの可能性が高くなるが、自無線端末装置における送信データと同時に P S - P o l l を送信することで、送信待ちの可能性は低減される。これにより、遅延を削減することで音声などのリアルタイム通信における音声品質の向上を図ることができる。

【0035】

次に、本発明の実施例を図面に基づいて詳細に説明する。

【実施例1】

図1は本発明の実施例1の送受信のタイミングチャート、図2はネットワークシステム構成図、図3は無線端末装置の機能から見た構成図、図4は動作のフローチャートである。

【0036】

図2は、無線端末装置と L A N 回線または W A N 回線に接続された無線基地局を配置し、音声や動画などの通信を提供するネットワークシステムを示す。このネットワークシステムは、無線基地局 100 と、本発明による無線端末装置 110、120 と、L A N 回線または W A N 回線に接続された端末装置 130 とを含む。

【0037】

無線基地局 100 は、無線端末装置 110 および 120 がパワーセーブモードへ遷移したことを制御パケットの受信をもって認識し、以後、無線端末装置 110 および 120 宛のパケットは無線基地局 100 内のメモリへバッファし、ビーコンの T I M にて通知する動作を行う。

【0038】

無線端末装置 110、120 は、無線基地局 100 を介して L A N 回線または W A N 回線に接続された端末装置 130 とインターネットプロトコル (I P) を用いて通信が可能である。無線端末装置 110 および 120 は、無線基地局 100 と無線物理層を用いて接続ネゴシエーションを行い、本ネットワークの一端末として動作する。そして、ネゴシエーション完了後、無線基地局 100 からのビーコンを受信し、さらに各情報要素を展開しビーコン間隔を取得後、D T I M 付きビーコン間隔にて間欠受信の動作モードで動作する。

【0039】

図3に、本発明による無線端末装置110、120の構成例を示す。各無線端末装置は、通信アプリケーション部300と、動作モード決定部310と、PS-Poll送信タイミング記憶部320と、タイマ制御部330と、電源制御部340と、通信制御部350と、無線通信インタフェース部360とを含む。

【0040】

通信アプリケーション部300は、当該無線端末装置上で動作中の通信アプリケーションを示している。すなわち、通信アプリケーション部300は、通信アプリケーション30₁から30_nまでのn個（nは2以上の整数）のアプリケーションが起動していることを表しており、または、一つも動作中のアプリケーションがない場合もある。通信アプリケーション部300は、起動されると動作モード決定部310に当該通信アプリケーションについて必要なパラメータを設定する。通信アプリケーション部300は、動作モード決定部310に通信の開始・切断およびアプリケーションの終了を伝える。通信アプリケーション部300が送信するデータは、通信制御部350へ渡され、受信データは通信制御部350より受け取る。

【0041】

動作モード決定部310は、起動した通信アプリケーションおよびそれに対するパラメータを記憶しており、それらの値は通信アプリケーション部300より設定される。動作モード決定部310は、設定される値から通信中のアプリケーションをキーとして適切な値をPS-Poll送信タイミング記憶部320およびタイマ制御部330へ設定する。

【0042】

PS-Poll送信タイミング記憶部320は、現在動作中の通信アプリケーションに対応するPS-Pollの送信タイミングを記憶しており、通信制御部350により用いられる。PS-Poll送信タイミング記憶部320の値は、動作モード決定部310により決められ設定される。

【0043】

タイマ制御部330は、通信アプリケーションからのリアルタイム要求がない

場合に動作し、動作モード決定部 3 1 0 より与えられる間欠受信間隔を取得し、与えられた間隔で電源制御部 3 4 0 にタイマ値を与え続ける。また、通信制御部 3 5 0 からのビーコン受信タイミングにより、タイマ値を補正する機能を持つ。通信アプリケーションからのリアルタイム要求の有り／無しの変更、つまり、タイマとして動作するタイミングの変更は通信制御部 3 5 0 より行われる。

【 0 0 4 4 】

電源制御部 3 4 0 は、通信制御部 3 5 0 からの投入・切断要求にしたがって、無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源を投入・切断することを繰り返す。また、電源制御部 3 4 0 は、タイマ制御部 3 3 0 からのタイマ値にしたがって、無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源を投入し、通信制御部 3 5 0 からの切断要求にしたがって、無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源を切断することを繰り返す。

【 0 0 4 5 】

通信制御部 3 5 0 は、通信アプリケーション部 3 0 0 からのデータを無線通信インタフェース部 3 6 0 より送信するための制御を、また、無線通信インタフェース部 3 6 0 で受信したデータを通信アプリケーション部 3 0 0 に渡す制御を行う。また、無線基地局 1 0 0 とのネゴシエーション処理も行う。さらに、通信制御部 3 5 0 は、通信アプリケーション部 3 0 0 から送信データを受け取ると、無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源投入要求を電源制御部 3 4 0 へ通知する。また、通信制御部 3 5 0 は、通信アプリケーション部 3 0 0 から受け取ったデータを全て送信後、P S - P o l l 送信タイミング記憶部 3 2 0 の情報を元に P S - P o l l を送信するかどうかを判断し、送信しない場合は無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源切断要求を電源制御部 3 4 0 へ通知する。送信する場合は、無線通信インターフェース部 3 6 0 より P S - P o l l を送信し、P S - P o l l に対応するパケットを全て受信後、無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源切断要求を電源制御部 3 4 0 へ通知する。また、通信制御部 3 5 0 は、P S - P o l l 送信タイミング記憶部 3 2 0 からリアルタイム要求の有り／無しを判断し、有りから無しへ変更になった時点でタイマ制御部 3 3 0 に対してタイマの開始を要求し、無しから有りへ変更になった時点でタイマの停止を要求する。

【 0 0 4 6 】

無線通信インタフェース部 3 6 0 は、通信制御部 3 5 0 より受け取ったデータを無線で送信する処理を行う。また、受信したデータを通信制御部 3 5 0 へ渡す処理を行う。無線通信インタフェース部 3 6 0 は、電源制御部 3 4 0 により電源の投入・切断が行われる。

【 0 0 4 7 】

次に、図 1、図 2、図 3 及び図 4 を参照して実施例 1 の動作について詳細に説明する。

無線端末装置 1 1 0、1 2 0 は、起動後、無線基地局 1 0 0 とネゴシエーションを行い、ネゴシエーション完了後は何も通信アプリケーションが動作していない状態となる。このとき、P S - P o l l 送信タイミング記憶部 3 2 0 はデフォルト値として“リアルタイム要求無し”が設定されているので、通常のパワーセーブ動作、すなわち、D T I M 間隔にて間欠受信動作を行う。

【 0 0 4 8 】

通信アプリケーション部 3 0 0 は、ある通信アプリケーションが動作すると、当該通信アプリケーションに付与された固有の番号である A P - I D およびリアルタイム要求の有リ／無しをパラメータとして動作モード決定部 3 1 0 に通知する。ここで A P - I D は各通信アプリケーションに対して一意に付与される。

【 0 0 4 9 】

次に、通信アプリケーション部 3 0 0 において、実際に通信が開始されると、動作モード決定部 3 1 0 に対して、当該通信アプリケーションの通信が開始したことを通知する。動作モード決定部 3 1 0 は、通信アプリケーション部 3 0 0 から通信の変化の旨通知を受けると、現在動作中の通信アプリケーションに対する全てのリアルタイム要求の有リ／無しを検索し取得する。

【 0 0 5 0 】

次に、動作モード決定部 3 1 0 は、取得したリアルタイム要求から一つでもリアルタイム要求有りがある場合は、無線端末装置 1 1 0、1 2 0 はリアルタイム要求有りと決定し、P S - P o l l 送信タイミング記憶部 3 2 0 へ記憶する。逆に、一つもリアルタイム要求がない場合は、無線端末装置 1 1 0、1 2 0 はリア

ルタイム要求無しと決定し、P S-P o l l 送信タイミング記憶部 320 へ記憶する。

【0051】

タイマ制御部 330 は、通信制御部 350 よりリアルタイム要求無しに切り替わった時点でタイマの開始を指示され、リアルタイム要求有りに切り替わるとタイマの停止を指示される。リアルタイム要求無しとなりタイマ制御開始を指示されると、動作モード決定部 310 から指示される値を基準として電源制御部 340 にタイマ値を与える。このため、通信アプリケーションの通信の開始によりリアルタイム要求有りから無しに変更となると、無線端末装置 110、120 のリアルタイム要求無しの時の間欠受信間隔がそれに連携して変更されることになる。

【0052】

また、これまで接続していた通信アプリケーションの通信が切断されると、動作モード決定部 310 に対して、当該通信アプリケーションの通信が切断したことを通知する。動作モード決定部 310 は、通信アプリケーション部 300 から通信が切断した旨通知を受けると、通信が切断したことを判断し、渡された A P-I D を通信中アプリケーションから削除する。動作モード決定部 310 は、その削除をした後、現在通信中のアプリケーションに対する全てのリアルタイム要求の有り／無しを再び検索し取得する。

【0053】

この後の処理は前記と同様であり、動作モード決定部 310 は、取得したリアルタイム要求から一つでもリアルタイム要求有りがある場合は、無線端末装置 110、120 はリアルタイム要求有りと決定し、P S-P o l l 送信タイミング記憶部 320 へ記憶する。逆に、一つもリアルタイム要求がない場合は、無線端末装置 110、120 はリアルタイム要求無しと決定し、P S-P o l l 送信タイミング記憶部 320 へ記憶する。

【0054】

動作モード決定部 310 は、通信アプリケーション部 300 から通信が切断した旨通知を受けた時点において、通信アプリケーション記憶部 310 に通信中の

アプリケーションが全て削除された場合、初期値として与えられている A P - I D が “ 0 ” の値のみ残ることになるため、リアルタイム要求無しとなり、前記ネゴシエーション完了後の動作と同様に、無線端末装置 110、120 は通常のパワーセーブモードでの動作、すなわち、D T I M 間隔で間欠受信動作を行う。

【0055】

図 4 は、本発明による無線端末装置 110、120 から、L A N 回線または W A N 回線に接続された他端末装置 130 宛のデータを送信するときの流れを示すフローチャートである。

【0056】

通信制御部 350 は、通信アプリケーション部 300 から他端末装置 130 宛の送信データを受け取ると、無線通信インタフェース部 360 の電源投入要求を電源制御部 340 に通知する（ステップ B 1）。電源制御部 340 は、通信制御部 350 から無線通信インタフェース部 360 の電源投入要求を通知されると、無線通信インタフェース部 360 の電源を投入する（ステップ B 2）。無線通信インタフェース部 360 は、電源制御部 340 より電源投入されるとデータの送受信が可能な状態となる。通信制御部 350 は、データの送受信可能状態となるとデータを送信し、データの到着確認パケットである応答信号（A C K）を無線基地局 100 より受信することでデータの送信を完了する（ステップ B 3）。

【0057】

次に、通信制御部 350 は、P S - P o l l 送信タイミング記憶部 320 から記憶されているリアルタイム要求の有リ／無しの情報を取得する（ステップ B 4）。ここで、リアルタイム要求無しの場合は、ステップ B 8 へ進み、通信制御部 350 は無線通信インタフェース部 360 の電源切断要求を電源制御部 340 へ通知し、無線通信インタフェース部 360 の電源を切断する（ステップ B 8）。

【0058】

ステップ B 4 において、リアルタイム要求有りの場合、通信制御部 350 は、P S - P o l l を送信する（ステップ B 5）。送信した P S - P o l l に対して無線基地局 100 からの応答信号（A C K）を受信し、無線基地局 100 に自無線端末装置宛のパケットがバッファされている場合は、バッファされているデー

タを引き続き受信する（ステップB6）。無線基地局100に自無線端末装置宛の packets がバッファされていない場合は、NULL データを引き続き受信する（ステップB6）。自無線端末装置宛の packets を受信した場合、受信したデータには、まだ無線基地局100に自無線端末装置宛の packets がバッファされているかどうかの情報が記述されているため、その値からバッファされているかどうかを判断し、バッファされている場合はさらにPS-POLLを送信する（再びステップB7からB5へ）。無線基地局100にバッファされているデータがなくなった時点およびNULL データを受信した時点で、通信制御部350は、無線通信インターフェース部360の電源切断要求を電源制御部340へ通知し、無線通信インターフェース部360の電源を切断する（ステップB8）。

【0059】

さらに、無線端末装置110、120の具体的な動作例について、図1のシーケンス図を参照して詳細に説明する。

図1は、無線基地局100と、“VIP”アプリケーションが動作中の無線端末装置110と、同じく“VIP”アプリケーションが動作中の無線端末装置120とのタイムチャートである。各無線端末装置110、120は、無線基地局100とネゴシエーションが完了しており、無線基地局100に対しては、パワーセーブモードで動作している旨通知済みである。

【0060】

無線基地局100は、一定間隔でビーコンを発信し、またあるビーコン間隔でDTIM付きのビーコンを発信している。ネゴシエーション完了後のパワーセーブにて動作している無線端末装置110、120の packets は、一旦無線基地局100のメモリにバッファして、無線端末装置110、120からの配送を促す送信要求（PS-POLL）を受け取ると、一旦バッファした packets を送信する。

【0061】

無線端末装置110、120は、それぞれリアルタイム要求有りの通信アプリケーションが動作している様子を表している。

無線端末装置110は、リアルタイム要求有りの“VIP”が動作しており

、通信中であるとする。この無線端末装置 110 において、通信アプリケーション部 300 から PS-Poll 送信タイミング記憶部 320 に対して、AP-ID が “1”、リアルタイム要求有りとして設定されたとすると、動作モード決定部 310 により、リアルタイム要求有りとして設定される。

【0062】

この無線端末装置 110 において、送信データが発生すると無線通信インタフェース部 360 の電源が投入され、データ送受信可能な状態となり、送信データ S1 を送信する。送信後、この無線端末装置 110 は前記よりリアルタイム要求有りの状態であるため、送信データ S1 に引き続き PS-Poll (PS1) を送信する。このとき、無線基地局 100 には、当該無線端末装置 110 宛のパケットが到着しており、バッファしている状態であるので、無線端末装置 110 からの PS-Poll (PS1) を受信すると、バッファしているパケット P1 を送信し、無線端末装置 110 はパケット P1 を受信する。無線基地局 100 にバッファされているパケットがなくなると、無線通信インタフェース部 360 の電源を切断し、データ送受信不可能な状態となる。

【0063】

引き続き、無線端末装置 110 において送信データが発生すると、前記と同様、無線通信インタフェース部 360 の電源を投入してそのデータ S3 を送信する。ここで、リアルタイム要求有りの状態であるため、データ S3 を送信後 PS-Poll (PS3) を送信し、無線基地局 100 にバッファされているパケット P3 を受信する。無線基地局 100 にバッファされているパケットをすべて受信した後は、前記と同様、無線通信インタフェース部 360 の電源を切断する。

【0064】

無線端末装置 110 で発生する送信データの発生間隔は、例えば、動作している通信アプリケーションが VoIP で、パケット化するサンプリング間隔が 20 m 秒だとすると、20 m 秒毎に送信データが発生し、20 m 秒毎に間欠的に起き上がる動作 (PS-Poll を送信してパケットを受信) を行う。このようにして、ビーコンの周期に依存しない間欠動作が可能となり、かつデータ受信時の遅延の影響を少なくすることが可能となる。

【0065】

無線端末装置 110 において、リアルタイム要求無しと設定されている場合は、データ送信後に P S - P o l l を送信することなく、データ送信後はそのまま無線通信インタフェース部 360 の電源を切断し、D T I M 付きビーコンに同期した間欠受信動作を行う。

【0066】

他の無線端末装置 120 においても、無線端末装置 110 と同様の動作を行っている様子を表している。無線端末装置 110 と 120 における送信データの発生間隔が同じとすると、それぞれの送信データ（S 1 と S 2）の発生のタイミングに依存関係はないため、図に示すように重ならない可能性が高くなる。

【0067】

よって、従来の方法のようにビーコン受信に同期した方法では、ビーコン受信直後に P S - P o l l の送信が集中することで発生していた送信時の衝突の割合を低減することが可能となり、それだけ遅延が減少することになる。また、送信データの発生間隔が異なる場合においても、同様に送信時の衝突の割合を低減することが可能となり、遅延の影響を少なくすることができる。

【0068】

本実施例 1 では、無線端末装置 110、120 上で 1 つの通信アプリケーションが通信しているが、このような動作は、無線端末装置 110、120 上で複数の通信アプリケーションが動作している場合でも、動作モード決定部 310 により当該無線端末装置での動作モードが決定され、通信アプリケーションの動作モードに連携した動作（パケット配送要求）を行う。さらに、複数の無線通信端末装置が同じ無線基地局 100 に接続されている場合でも、各無線端末装置上で動作している通信アプリケーションの通信にしたがって、それぞれ異なった間欠動作を行うことが可能である。

【0069】**【実施例 2】**

次に、本発明の他の実施例について図面を参照して詳細に説明する。

図 3 を参照すると、本実施例 2 は、図 3 に示された実施例 1 における通信アプ

リケーション部 300 と、通信制御部 340 の動作が実施例 1 とは一部異なる。

【0070】

通信アプリケーション部 300 は、実施例 1 での動作と異なり、通信アプリケーションの動作後、送信データが発生した時点で通信制御部 350 にデータを渡すが、同時にリアルタイム要求の有り／無しを送信データに対する付加情報として渡す。このとき、リアルタイム要求の有り／無しは通信アプリケーション部 300 により決定される。例えば、V o I P などのようにリアルタイム性の必要となる通信アプリケーションの場合は、リアルタイム要求有りが発生した送信データと一緒に通信制御部 350 に渡され、WEB ブラウザなどのようにリアルタイム性の必要とならない通信アプリケーションの場合は、リアルタイム要求無しが送信データと一緒に通信制御部 350 に渡される。

【0071】

通信制御部 350 は、実施例 1 とは一部動作が異なる。すなわち、実施例 1 では、通信アプリケーション部 300 から受け取った送信データを送信後、P S - P o l l 送信タイミング記憶部 320 の情報を見て P S - P o l l を送信するかしないかを決定していたが、実施例 2 では、通信アプリケーション部 300 から受け取った送信データと同時に P S - P o l l を送信するかどうかの情報を受け取り、受け取った情報を元にして受け取ったデータを送信後に P S - P o l l を送信するかどうかを決定する。

【0072】

本実施例 2 の動作を図面を参照して詳細に説明する。

図 5 は、本実施例 2 における通信制御部 350 の動作の一部を示したフローチャートである。

【0073】

通信アプリケーション部 300 は、送信データが発生すると通信制御部 350 に対してリアルタイム要求の有り／無しの情報を加えて送信データと共に渡す（ステップ F 1）。通信制御部 350 は、通信アプリケーション部 300 から他端末装置宛の送信データを受け取ると、無線通信インタフェース部 360 の電源投入要求を電源制御部 340 に通知する。電源制御部 340 は、通信制御部 350

から無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源投入を要求されると、無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源を投入する（ステップ F 2）。無線通信インタフェース部 3 6 0 は、電源制御部 3 4 0 より電源投入されるとデータの送受信が可能な状態となる。通信制御部 3 5 0 は、データの送受信可能状態となるとデータを送信し、データの到着確認パケットである応答信号（ACK）を無線基地局 1 0 0 より受信することでデータの送信を完了する（ステップ F 3）。

【 0 0 7 4 】

次に、通信制御部 3 5 0 は、送信データと共に通信アプリケーション部 3 0 0 より受け取ったリアルタイム要求の有／無しの情報からリアルタイム要求の有／無しを判断し、次の処理を行う（ステップ F 4）。

【 0 0 7 5 】

リアルタイム要求無しの場合、通信制御部 3 5 0 は無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源切断要求を電源制御部 3 4 0 へ通知し、無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源を切断する（ステップ F 8）。

【 0 0 7 6 】

リアルタイム要求有りの場合、通信制御部 3 5 0 は、PS-POLL を無線基地局に対して送信する（ステップ F 5）。送信した PS-POLL に対して無線基地局 1 0 0 から応答信号（ACK）を受信し、無線基地局 1 0 0 に自無線端末装置宛のパケットがバッファされている場合はバッファされているデータを引き続き受信する（ステップ F 6）。無線基地局 1 0 0 に自無線端末装置宛のパケットがバッファされていない場合は無線基地局 1 0 0 からの NULL データを引き続き受信する。自無線端末装置宛のパケットを受信した場合、受信したデータには、まだ無線基地局 1 0 0 に自無線端末装置宛のパケットがバッファされているかどうかの情報が記述されているため、その値からバッファされているかどうかを判断し（ステップ F 7）、バッファされている場合はさらに PS-POLL を送信する（ステップ F 5 へ戻る）。無線基地局 1 0 0 にバッファされているデータがなくなった時点および NULL データを受信した時点で、通信制御部 3 5 0 は無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源切断要求を電源制御部 3 4 0 へ通知し、無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源を切断する（ステップ F 8）。

【0077】

本実施例2では、通信アプリケーション部300において送信データを通信制御部350に渡すと同時にデータに対応するリアルタイム要求の有り／無しの情報も渡す点で、実施例1とは異なる。このため、無線端末装置110、120においてリアルタイム性の要求されないWEBブラウザと、リアルタイム性の要求されるVoIPなどのようにリアルタイム要求の異なる通信アプリケーションが同時に動作している場合、実施例1では、どちらの通信アプリケーションからのデータなのかを判断せずにリアルタイム要求有りのときはデータ送信後にPS-Pollを送信していたが、本実施例2では、リアルタイム要求有りの通信アプリケーションからの送信データの後にのみPS-Pollを送信するため、無駄にPS-Pollを送信することがないため動作時間を一層減らすことができ、その結果、少しでも長く使用することが可能となる。

【実施例3】

次に、本発明のさらに他の実施例について説明する。

図3を参照すると、本実施例3は、図3に示された実施例1における動作モード決定部310と、通信制御部340の動作が実施例1とは一部異なる。

【0078】

動作モード決定部310は、実施例1での機能に加えて、通信アプリケーション部300より通信中のアプリケーションの切替を通知されると、通信制御部350に対して通信中のアプリケーションの切替があったことを通知する点で異なる。また、動作モード決定部310は、リアルタイム要求時の間欠動作間隔を保持している。この間欠動作間隔はタイマ制御部330により用いられる。

【0079】

通信制御部350は、通信アプリケーション部300からのデータを無線通信インタフェース部360より送信するための制御を、また、無線通信インタフェース部360で受信したデータを通信アプリケーション部300に渡す制御を行う。通信制御部350は、通信アプリケーション部300から送信データを受け取ると、無線通信インタフェース部360の電源投入要求を電源制御部340へ要求する。通信制御部350は、通信アプリケーション部300から受け取った

データを全て送信する。ここまでの動作は、実施例 1 と同様である。

【0080】

本実施例 3 では、データを全て送信後、無線通信インタフェース部 360 の電源切断要求を電源制御部 360 へ要求する。通信制御部 350 は、動作モード決定部 310 より、通信中のアプリケーションの切替があったことを通知されると、PS-Poll 送信タイミング決定部 320 よりリアルタイム要求の有り／無しを取得し、取得した値によって次のような動作を行う。

【0081】

リアルタイム要求有りから再び有り、または、リアルタイム要求無しから再び無しと、変化がない場合は何も行わない。リアルタイム要求無しから有りへ切り替わった場合、タイマ制御部 330 に対して、動作モード決定部 310 からの値をもとにビーコン間隔とは関係なく通信制御部 350 に対してタイマ値を与えるように要求する。リアルタイム要求有りから無しへ切り替わった場合、タイマ制御部 330 に対して、動作モード決定部 310 からの値をもとにビーコン間隔に同期したタイマ値を電源制御部 340 に対して与えるように要求する点で実施例 1 とは異なる。

【0082】

本実施例 3 の動作を図面を参照して詳細に説明する。

図 6 は、本実施例 3 における通信制御部 350 の動作の一部を示したフローチャートである。

【0083】

動作モード決定部 310 は、通信アプリケーション部 300 より通信の開始、切断を通知されると、通信制御部 350 に対して通信中のアプリケーションの切替があったことを通知する（ステップ D1）。

【0084】

通信制御部 350 は、動作モード決定部 310 より通信中のアプリケーションの切替があったことを通知されると、PS-Poll 送信タイミング記憶部 320 よりリアルタイム要求の有り／無しを取得し、取得した値により異なる動作を行う（ステップ D2）。

【 0 0 8 5 】

ステップD 3において、リアルタイム要求有りから再び有り、または、リアルタイム要求無しから再び無しと、変化がない場合は現状の動作を継続する（ステップD 9）。

【 0 0 8 6 】

ステップD 4において、リアルタイム要求無しから有りへ切り替わった場合、動作モード決定部 3 1 0 からの値をもとにビーコン間隔とは関係なく通信制御部 3 5 0 に対してタイマ値を与えるように要求し（ステップD 5）、以後、通信制御部 3 5 0 は、タイマ制御部 3 3 0 からのタイマ値に同期して電源制御部 3 4 0 に対して無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源投入要求を行うことで電源投入を行いデータ送受信可能状態とし、P S - P o l l を送信する動作を繰り返す。このときの動作の詳細は下記に示す。

【 0 0 8 7 】

ステップD 4において、リアルタイム要求有りから無しへ切り替わった場合、動作モード決定部 3 1 0 よりD T I M 付きのビーコン間隔に同期したタイマ値を通信制御部 3 5 0 に対して与えるように要求し（ステップD 7）、以後、通信制御部 3 5 0 は、タイマ制御部 3 3 0 からのタイマ値に同期して電源制御部 3 4 0 へ無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源投入要求を行うことで電源投入してデータ送受信可能状態とし、D T I M 付きビーコンを受信することによって間欠受信を行う動作を繰り返す（ステップD 8）。

【 0 0 8 8 】

図 7 は、前記リアルタイム要求有り時の通信制御部 3 5 0 の動作の詳細を示すフローチャートである。

【 0 0 8 9 】

通信制御部 3 5 0 は、リアルタイム要求有り時、タイマ制御部 3 3 0 からのタイマ値に従い無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源の投入を電源制御部 3 4 0 に要求し、データの送受信可能状態とする（ステップC 1）。次に、通信制御部 3 5 0 は、P S - P o l l を送信する（ステップC 2）。送信したP S - P o l l に対して無線基地局 1 0 0 から応答信号（A C K）を受信し、無線基地局 1 0

0 に自無線端末装置宛のパケットがバッファされている場合はバッファされているデータを引き続き受信する（ステップ C 3）。無線基地局 100 に自無線端末装置宛のパケットがバッファされていない場合でも、N U L L データを引き続き受信する（ステップ C 3）。

【0090】

自無線端末装置宛のパケットを受信した場合、受信したデータには、まだ無線基地局 100 に自無線端末装置宛のパケットがバッファされているかどうかの情報が記述されているため、その値からバッファされているかどうかを判断し、バッファされている場合はさらに P S - P o l l を送信する（再びステップ C 4 から C 2 へ）。無線基地局 100 にバッファされているデータがなくなった時点および N U L L データを受信した時点で、通信制御部 350 は無線通信インターフェース部 360 の電源切断要求を電源制御部 340 へ通知し、無線通信インターフェース部 360 の電源を切断する（ステップ C 5）。

【0091】

通信制御部 350 は、リアルタイム要求無し時の動作は、実施例 1 と同様に、D T I M 付きビーコンに同期した間欠受信動作を行う。

【0092】

本実施例 3 では、通信制御部 350 において、リアルタイム要求時の P S - P o l l を送信するタイミングを実施例 1 とは異なり、送信データともビーコンとも同期せずに、通信アプリケーションに連携した間隔で自発的に P S - P o l l を送信する動作を行う。このため、上下対称の通信ではない場合のリアルタイム性の必要な通信においても、ビーコンに同期した場合に起こる可能性が高いビーコン後の P S - P o l l の集中により引き起こる衝突の可能性の減少による、受信パケットの遅延の減少、また、通信品質の向上効果が得られる。本実施例 3 では、リアルタイム要求時の間欠動作間隔をあらかじめ動作モード決定部 310 が保持しているが、通信アプリケーション部 300 から動作モード決定部 310 に渡すようにしてもよい。。また、本実施例 3 は実施例 1 および実施例 2 と組み合わせて利用することが可能である。

【0093】

【実施例 4】

次に、本発明のさらに他の実施例について説明する。

図 8 を参照すると、本実施例 4 は、図 3 に示された実施例 1 における動作モード決定部 310 の構成例が、通信中アプリケーション記憶部 311 と、パラメータ記憶部 312 と、タイマ値記憶部 313 と、アプリケーション通信管理制御部 317 と、パラメータ決定部 318 とで構成されている点が実施例 1 とは異なる。本実施例 4 は、実施例 1 における動作モード決定部 310 の構成を詳細な機能構成にした場合である。

【0094】

通信アプリケーション部 300 は、起動されるとパラメータ記憶部 312 に必要なパラメータを設定する。また、終了時には、起動時に設定したパラメータをパラメータ記憶部 312 から削除する。通信アプリケーション部 300 は、アプリケーション通信管理制御部 317 に通信の開始・切断を伝える点で、実施例 1 とは異なる。

【0095】

通信中アプリケーション記憶部 311 は、現在通信中のアプリケーションを記憶しており、アプリケーション通信管理制御部 317 より設定される。例えば、通信中アプリケーション記憶部 311 は、図 9 を参照すると、AP-ID が “0” の場合を、通信アプリケーションが一つも実行されていない状態での値、つまり初期値としてあらかじめ記憶している（410）。通信中アプリケーション記憶部 311 は、実行中の通信アプリケーションに対応する一意に定められる値として保持している。すなわち、AP-ID が “1”、および AP-ID が “3” にあたる通信アプリケーションが現在通信していることを記憶している。

【0096】

パラメータ記憶部 312 は、現在動作中の通信アプリケーションに対応するリアルタイム要求の有り／無しの情報を記憶しており、通信アプリケーション部 300 により設定される。例えば、パラメータ記憶部 312 は、図 9 を参照すると、AP-ID が “0” の場合は、“リアルタイム要求無し”としてあらかじめ記憶している（411）。

【0097】

また、パラメータ記憶部 312 は、現在動作中の通信アプリケーションに対応する省電力の割合を記憶しており、通信アプリケーション部 300 により設定される。例えば、パラメータ記憶部 312 は、図 9 を参照すると、AP-ID が “0” の場合は省電力の割合が 100% とあらかじめ記憶しており（411）、すなわち、通信アプリケーションが一つも起動していない場合、無線端末装置 110、120 は DTIM 付きビーコン間隔で間欠受信動作を行っている。

【0098】

さらに、パラメータ記憶部 312 は、現在動作中の通信アプリケーションに対応する優先度も記憶しており、通信アプリケーション部 300 により設定される。例えば、パラメータ記憶部 312 は、図 9 を参照すると、AP-ID が “0” の場合は優先度が “低” としてあらかじめ記憶しており（411）、すなわち、通信アプリケーションが一つも起動していない場合、無線端末装置 110、120 は優先度が “低” で動作を行っている。

【0099】

タイマ値記憶部 313 の記憶内容は、Wake-Up タイマ値 314、IFS (Interframe space: 無通信監視期間) タイマ値 315 およびランダムバックオフタイム範囲 316 で構成される。Wake-Up タイマ値 314、IFS タイマ値 315 およびランダムバックオフタイム範囲 316 はパラメータ決定部 318 によって決められ、パラメータ決定部 318 により値が設定される。Wake-Up タイマ値 314 は無線基地局 100 とのネゴシエーション完了後、ビーコンを取得することで得られる DTIM 間隔がパラメータ決定部 318 によりあらかじめ設定される。また、タイマ値記憶部 313 は、無線端末装置 110、120 が無線基地局 100 に PS-Poll を送信する時に用いる、もしくはデータを送信する時に用いる DIFS (Distributed Interframe space) 値およびランダムバックオフタイムの範囲を記憶している。

【0100】

アプリケーション通信管理制御部 317 は、通信アプリケーション部 300 より与えられた AP-ID と通信の開始・切断を通知され、通信アプリケーション

記憶部 311 に通信の開始により通信中のアプリケーションの A P - I D の追加をまたは通信の切断により A P - I D の削除を行う。また、パラメータ決定部 318 に通信中のアプリケーションの切り替えを通知する。

【0101】

パラメータ決定部 318 は、アプリケーション通信管理制御部 317 より通信中のアプリケーションの切替を通知されると、通信中のアプリケーション記憶部 311 より現在通信中のアプリケーションの A P - I D を取得し、通信中のアプリケーションを認識する。パラメータ決定部 318 は、パラメータ記憶部 312 より、通信中のアプリケーションについてリアルタイム要求が有るか無いかを取得し、一つでもリアルタイム要求がある場合は“リアルタイム要求有り”を、リアルタイム要求がない場合は“リアルタイム要求無し”を、P S - P o l l 送信タイミング記憶部 320 に設定する。

【0102】

また、パラメータ決定部 318 は、パラメータ記憶部 312 より通信中のアプリケーションの省電力の割合を取得し、その中から最小の省電力の割合を求める。求めた割合から、通信制御部 350 より与えられる D T I M 間隔および T I M 間隔を用いて実際に無線端末装置 110、120 の間欠受信間隔を求め、タイマ値記憶部 313 の W a k e - U p タイマ値 314 を設定する。同時に、パラメータ決定部 318 は、パラメータ記憶部 312 より、通信中のアプリケーションの優先度を取得し、その中から最も優先度の高いものを求める。求めた優先度から、実際に無線端末装置 110、120 がデータを送信する時もしくは P S - P o l l を送信する時の D I F S のタイマ値およびランダムバックオフタイムの範囲を求め、タイマ値記憶部 313 に I F S タイマ値 315 およびランダムバックオフタイム範囲 316 を設定する。

【0103】

P S - P o l l 送信タイミング記憶部 320 は、現在動作中の通信アプリケーションに対応する P S - P o l l の送信タイミングを記憶しており、通信制御部 350 により用いられる。P S - P o l l 送信タイミング記憶部 320 の値は、パラメータ決定部 318 により決められ設定される。

【0104】

タイマ制御部330は、通信アプリケーション部300からのリアルタイム要求がない場合に動作し、Wake-Upタイマ値314から間欠受信間隔を取得し、Wake-Upタイマ値314の個数分のTIM間隔で電源制御部340にタイマ値を与え続ける。また、タイマ制御部330は、DTIM付きビーコンの受信を基準としてタイマ値を与え始める。さらに、通信制御部350からのビーコン受信タイミングにより、タイマ値の補正を行う。通信アプリケーション部300からのリアルタイム要求の有り／無しの変更は通信制御部350より行われる。

【0105】

次に、図8、図9及び図10を参照して本実施例4の動作について詳細に説明する。

無線端末装置110、120は、起動後、無線基地局100とネゴシエーションを行い、ネゴシエーション完了後は何も通信アプリケーションが動作していない状態となる。このとき、PS-Poll送信タイミング記憶部320は“リアルタイム要求無し”が設定されているので、通常のパワーセーブ動作、すなわち、DTIM間隔にて間欠受信動作を行う。

【0106】

図10は、無線端末装置110、120上で動作する通信アプリケーションから、リアルタイム要求の有り／無しを決定するまでの流れを示すフローチャートである。

【0107】

通信アプリケーション部300は動作すると、当該通信アプリケーションに対応するAP-IDおよびリアルタイム要求の有り／無し情報をパラメータ記憶部312に記憶する。ここでAP-IDは通信アプリケーションに対して一意に付与される。例えば、動作した通信アプリケーションにAP-ID“1”が付与され、リアルタイム要求有りと記憶される(411)。同時に、省電力の割合および通信の優先度をパラメータ記憶部312に記憶する。例えば、省電力の割合が“10%”と、優先度が“低”と記憶される(411)。次に、通信アプリケー

ション部 300 において、実際に通信が開始されると、アプリケーション通信管理制御部 317 に対して、通信アプリケーションの通信が開始したことを通知する。例えば、AP-ID “1” の通信が開始されたことを通知する。

【0108】

アプリケーション通信管理制御部 317 は、通信アプリケーション部 300 から通信が開始された旨通知を受けると、通信が開始されたことを判断し（ステップ A1）、渡された AP-ID を通信中アプリケーション記憶部 311 に追加する（ステップ A2）（402）。アプリケーション通信管理制御部 317 は、AP-ID を追加した後、パラメータ決定部 318 に対して、通信の切替があった旨を通知する。

【0109】

パラメータ決定部 318 は、アプリケーション通信管理制御部 317 から通信の変化の旨通知を受けると、通信中アプリケーション記憶部 311 から現在通信中のアプリケーションを検索し取得する（ステップ A3）。次に、取得した通信中アプリケーションの AP-ID に対する全てのリアルタイム要求の有り／無しを検索し取得する（ステップ A4）。例えば、図 9 に示す例では、通信中アプリケーションの AP-ID が “0”、“1”、“3” を取得したとすると、それぞれのリアルタイム要求は “無し”、“有り”、“無し” となる。

【0110】

次に、パラメータ決定部 318 は、取得したリアルタイム要求から一つでもリアルタイム要求有りがある場合は、無線端末装置 110、120 はリアルタイム要求有りと決定し、PS-Poll 送信タイミング記憶部 320 へ記憶する（ステップ A5、6）。例えば前記の例の場合、それぞれのリアルタイム要求は “無し”、“有り”、“無し” となっているため、“有り” と決定され設定されることになる。

【0111】

パラメータ決定部 318 は同時に、アプリケーション通信管理制御部 317 から通信の変化の旨通知を受けると、通信中アプリケーション記憶部 311 から現在通信中のアプリケーションを検索し取得した後、取得した通信中アプリケーシ

ョンのAP-IDに対する全ての省電力の割合を検索し取得する。例えば、図9に示すように、通信中アプリケーションのAP-IDが“0”、“1”、“3”を取得したとすると、それぞれの省電力の割合はAP-ID“0”が“100%”、AP-ID“1”が“10%”、AP-ID“3”が“100%”となる。

【0112】

次に、パラメータ決定部318は、取得した省電力の割合から最小値の割合を決定し、その割合から間欠受信間隔を求める。この間欠受信間隔を求める例として、次のような方法を用いる。パラメータ決定部318は、DTIM間隔から公約数を求め、公約数の個数で割合を等間隔で分割し、省電力の割合と一致する区間の間欠受信間隔を用いる。例えば、DTIM間隔が“8”だとすると、公約数は、“1”、“2”、“4”、“8”の4つとなり、その個数で割合を等間隔で分割すると、0%から25%までが“1”、26%から50%までが“2”、51%から75%までが“4”、76%から100%までが“8”となる。前記の省電力の割合が10%とすると、間欠受信間隔は“1”と決定される。このようにして決定した間欠受信間隔をWake-Upタイマ値として記憶する。

【0113】

タイマ制御部330は、通信制御部350よりリアルタイム要求無しに切り替わった時点でタイマの開始を指示され、リアルタイム要求有りに切り替わるとタイマの停止を指示される。リアルタイム要求無しとなり、タイマ制御開始を指示されると、常にタイマ値記憶部313のWake-Upタイマ値314の値を基準としてTIMの間隔と乗算し、乗算した値を基準として電源制御部340にタイマ値を与えるため、アプリケーションの通信の開始によりWake-Upタイマ値314が変更すると、無線端末装置110、120のリアルタイム要求無しの時の間欠受信間隔がそれに連携して変更されることになる。

【0114】

また、パラメータ決定部318は、アプリケーション通信管理制御部317から通信の変化の旨通知を受けると、通信中アプリケーション記憶部311から現在通信中のアプリケーションを検索し取得取得した後、取得した通信中アプリケーションのAP-IDに対する全ての優先度を検索し取得する。例えば、図9に

示すように、通信中アプリケーションのAP-IDが“0”、“1”、“3”を取得したとすると、それぞれの優先度はAP-IDが“0”の場合が“低”、AP-ID“1”の場合が“高”、AP-IDが“3”の場合が“中”となる。次に、パラメータ決定部318は、取得した優先度から最も高い優先度を決定し、その優先度からDIFS値、及びランダムバックオフ時間の範囲を求める。このDIFS値およびランダムバックオフ時間の範囲を求める例として、次のような方法を用いる。

【0115】

パラメータ決定部318は、DIFSを用いてIFSタイマ値を、優先度が“高”のときは $DIFS - 2t$ 、“中”のときは $DIFS - t$ 、“低”のときはDIFSとする。ここで t の値は任意であるものとする。また、ランダムバックオフ時間の範囲を通常のランダムバックオフ時間の最大値を R とすると、優先度が“高”のときは $0 \sim 0.5R$ 、“中”のときは $0 \sim 0.75R$ 、“低”のときは $0 \sim R$ とする。前記の優先度が“高”とすると、IFSタイマ値は $DIFS - 2t$ となり、ランダムバックオフ時間の範囲は最も狭い $0 \sim 0.5R$ と決定される。このようにして決定したIFSタイマ値およびランダムバックオフ時間をタイマ値記憶部330に記憶する。

【0116】

タイマ制御部330は、通信制御部350よりDIFSのタイマ値およびランダムバックオフ範囲を要求されると、常にタイマ値記憶部313のIFSタイマ値332及びランダムバックオフ範囲333の値を基準として電源制御部380にタイマ値を与えているため、通信アプリケーションの通信の開始によりIFSタイマ値315およびランダムバックオフ範囲316が変更すると、無線端末装置110、120においてデータを送信するときのDIFSのタイマ値およびPSPoll時のDIFSのタイマ値およびランダムバックオフの範囲がそれに連携して変更されることになる。

【0117】

また、ステップA1において、これまで接続していた通信アプリケーションの通信が切断されると、アプリケーション通信管理制御部317に対して、通信ア

アプリケーションの通信が切断したことを通知する。アプリケーション通信管理制御部 317 は、通信アプリケーション部 300 から通信が切断した旨通知を受けると、通信が切断したことを判断し（ステップ A1）、渡された AP-ID を通信中アプリケーション記憶部 311 から対応する AP-ID の記憶を削除する（ステップ A7）。アプリケーション通信管理制御部 317 は、削除した後、パラメータ決定部 318 に対して、通信の切り替えがあった旨を通知する。この後の処理は、前記と同様であり、ステップ A3 の処理へ進む。

【0118】

ステップ A7 において、通信アプリケーション記憶部 311 に通信中のアプリケーションが全て削除された場合、初期値として与えられている AP-ID が “0” の値のみ残ることになるため、リアルタイム要求無しとなり、通信中のアプリケーションが存在しない場合は、無線端末装置 110、120 は通常のパワーセーブモードでの動作である DTIM 間隔で間欠受信動作を行い、通常の DIFS 値およびランダムバックオフ範囲で通信制御部 360 は送信処理を行う。

【0119】

本実施例 4 での無線端末装置 110、120 から他端末装置 130 宛のデータを送信するときの流れは実施例 1 と同様である。

本実施例 4 では、タイマ値記憶部 313 にデータ送信時に用いるまたは PS-PPoll 時に用いる IFS タイマ値 315 およびランダムバックオフ範囲 316 を持たせた。このため、通信中のアプリケーションにより優先度を設定することが出来、音声通話などのリアルタイム性が要求される通信において、遅延の影響を削減することができるという効果が得られる。

【0120】

【実施例 5】

次に、本発明のさらに他の実施例について図面を参照して詳細に説明する。

図 8 を参照すると、本実施例 5 は、図 8 に示された実施例 4 における機能構成と同様であるが、実施例 1 と実施例 3 の動作の違いと同様の違いが、実施例 4 との動作の異なる点である。すなわち、図 8 を参照すると、本実施例 5 は、図 8 に示された実施例 4 におけるパラメータ決定部 318、タイマ制御部 330 および

通信制御部 3 5 0 の動作が実施例 4 とは一部異なる。

【0 1 2 1】

パラメータ決定部 3 1 8 は、実施例 4 での機能に加えて、アプリケーション通信管理制御部 3 1 7 より通信中のアプリケーションの切替を通知されると、通信制御部 3 5 0 に対して通信中のアプリケーションの切替があったことを通知する点で異なる。

【0 1 2 2】

タイマ制御部 3 3 0 は、Wake-Up タイマ値 3 1 4 をもとにビーコン間隔に同期したタイマ値を電源制御部 3 5 0 に与えるか、Wake-Up タイマ値をもとにビーコン間隔とは関係なく通信制御部 3 5 0 に対してタイマ値を与えるかを、通信制御部 3 5 0 からの要求により変更する点で実施例 4 とは異なる。

【0 1 2 3】

通信制御部 3 5 0 は、通信アプリケーション部 3 0 0 からのデータを無線通信インタフェース部 3 6 0 より送信するための制御を、また、無線通信インタフェース部 3 6 0 で受信したデータを通信アプリケーション部 3 0 0 に渡す制御を行う。さらに、無線基地局 1 0 0 とのネゴシエーション処理も行う。通信制御部 3 5 0 は、通信アプリケーション部 3 0 0 から送信データを受け取ると、無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源投入要求を電源制御部 3 4 0 へ要求する。通信制御部 3 5 0 は、通信アプリケーション 3 0 0 から受け取ったデータを全て送信する。

【0 1 2 4】

ここまでの動作は、実施例 4 と同様である。本実施例 5 では、データを全て送信後、無線通信インタフェース部 3 6 0 の電源切断要求を電源制御部 3 5 0 へ要求する。通信制御部 3 5 0 は、パラメータ決定部 3 1 8 より、通信中のアプリケーションの切替があったことを通知されると、PS-Poll 送信タイミング記憶部 3 2 0 よりリアルタイム要求の有／無しを取得し、無しから有りへ切り替わったときは、タイマ制御部 3 3 0 に対して、Wake-Up タイマ値をもとにビーコン間隔とは関係なく通信制御部 3 5 0 に対してタイマ値を与えるように要求し、有りから無しへ切り替わったときは、タイマ制御部 3 3 0 に対して、W

a k e - U p タイマ値をもとにビーコン間隔に同期したタイマ値を電源制御部 340 に対して与えるように要求する点で実施例 4 とは異なる。すなわち、通信制御部 350 は実施例 3 での動作と同様である。

【0125】

本実施例 5 の動作を説明する。

図 8、図 9 および図 10 を参照すると、実施例 4 と異なるのは、パラメータ決定部 318、タイマ制御部 330 および通信制御部 350 での処理のみが異なる。

【0126】

通信アプリケーション 300 に対する、P S - P o l l 送信タイミング記憶部 320 およびタイマ値記憶部 313 の決定手段は実施例 4 と同様である。また、本実施例 5 における通信制御部 350 の動作は、実施例 3 と同様である。

【0127】

本実施例 5 では、実施例 4 と同様、タイマ値記憶部 313 にデータ送信時に用いるまたは P S - P o l l 時に用いる I F S タイマ値 315 およびランダムバックオフ範囲 316 を持たせた。このため、通信中のアプリケーション部 300 により優先度を設定することが出来、音声通話などのリアルタイム性が要求される通信において、遅延の影響を削減することができるという効果が得られる。

【0128】

本実施例 5 では、通信制御部 350 において、リアルタイム要求時の P S - P o l l を送信するタイミングを実施例 4 とは異なり、送信データともビーコンとも同期せずに、通信アプリケーションに連携した間隔で自発的に P S - P o l l を送信する動作を行う。このため、上下対称の通信ではない場合のリアルタイム性の必要な通信においても、ビーコンに同期した場合に起こる可能性が高いビーコン後の P S - P o l l の集中により引き起こる衝突の可能性の減少による、受信パケットの遅延の減少、また、通信品質の向上効果が得られる。また、本実施例は実施例 1 または実施例 2 および実施例 4 と組み合わせて利用することが可能である。

【0129】

【実施例 6】

次に、本発明のさらに他の実施例について説明する。

図 11 を参照すると、本実施例 6 は、さらにバッテリー残量検出部 500 およびパラメータ制限値記憶部 510 を有する点で、図 8 に示した実施例 4 とは異なる。また、本実施例 6 では、図 3 に示された実施例 1、実施例 2 および実施例 3 の動作モード決定部 310 の決定手段および図 8 に示された実施例 4 および実施例 5 のパラメータ決定部 318 の決定手段と図 11 に示されたパラメータ決定部 318 の決定手段が異なる。

【0130】

バッテリー残量検出部 500 は、パラメータ決定部 318 よりバッテリー残量の検出要求を受けるとバッテリー残量を測定し、パラメータ決定部 318 に通知する。

【0131】

パラメータ制限値記憶部 510 には、図 12 に詳細を示すように、バッテリー残量の割合 520 および 530 により、省電力の割合の制限値 521 および 531、および通信時の優先度の割合 522 および 532 が定められている。なお、これらの値はあらかじめ記憶されている。パラメータ制限値記憶部 510 の値は、パラメータ決定部 318 より読み出される。

【0132】

パラメータ決定部 318 は、タイマ値記憶部 313 の各値を決定する際に、バッテリー残量によって各値の制限値を設けるところが、実施例 1～5 の動作モード決定部もしくはパラメータ決定部と異なる。

【0133】

本実施例 6 の動作を図面を参照して詳細に説明する。

図 12 および 13 を参照すると、前述の実施例と異なるのは、パラメータ決定部 318 での処理のみが異なるので、パラメータ決定部 318 の処理部分についてのみ説明する。

【0134】

図 13 のフローチャートにおいて、ステップ E54、E55、E56、E57、E58 および E61 のステップが追加されている。実施例 4 および実施例 5 で

決定するタイマ値記憶部 313 の各値を決める段階までがステップ E53 となる。本実施例 6 では、次に、バッテリー残量検出部 500 よりバッテリー残量の割合を取得し（ステップ E54）、パラメータ制限値記憶部 510 より、取得したバッテリー残量の割合より現在のタイマ値記憶部 313 に設定する各値の制限値を取得する（ステップ E55）。ステップ E53 で決定した各値とステップ E55 で取得した制限値の比較を行う（ステップ E56）。

【0135】

次に、比較した結果により、ステップ E53 で決定した値を用いるか、ステップ E55 で取得した値を用いるかを決定する。比較結果による分岐はタイマ値記憶部 313 の各値により異なる。例えば、省電力の割合を決定する場合、ステップ E53 で決定した割合が制限値よりも大きいかまた同じ場合はステップ E53 で決定した割合を使用し（ステップ E58）、小さい場合は制限値を用いる（ステップ E61）。一方、優先度の割合を決定する場合、ステップ E53 で決定した優先度が制限値よりも同じか高い場合はステップ E53 で決定した優先度を使用し（ステップ E58）、低い場合は制限値を用いる（ステップ E61）。

【0136】

これにより、パラメータ制限値記憶部 510 に設定されているようにバッテリー残量がある値より少なくなると、制限値で定めた間欠受信間隔より短い間隔での間欠受信動作は行わないように制限することが可能となり、また、優先度を上げることである通信アプリケーションの終了処理などを正常に行わせたりすることが可能となる。

【0137】

本実施例 6 では、バッテリー残量検出部 500 およびパラメータ制限値記憶部 510 を設けた。これにより、バッテリー残量が少なくなってきた場合に、少しでも長く使えるように調整することが可能となる効果が得られ、また、アプリケーションの通信中に不意に切断されてしまう前に正常に通信が終了することを促進する効果が得られる。

【0138】

また、バッテリー残量検出部 510 は、パラメータ制限値記憶部 500 からバッ

テリ残量の割合の範囲が変わった時点でパラメータ決定部 318 に通知する機能を持っていてもよい。その場合、パラメータ決定部 318 は通知された時点で新たにタイマ値記憶部 313 に記憶されている各値を更新することで、通信中にバッテリー残量に変化が起きたときに対応することができる。

【0139】

また、本実施例 6 は実施例 3、実施例 4 または実施例 5 と組み合わせて利用することが可能である。

【0140】

なお、上述した例では、LAN 回線または WAN 回線に接続された端末装置 130 との通信の場合について説明したが、同じ無線基地局 100 に接続している他の無線端末装置とも同様に動作する。

【0141】

リアルタイム要求有りの時の動作として、本発明による間欠動作に加えて、DTIM 付きビーコンを受信する動作を行っても良い。このような方法により、ブロードキャストパケットの取りこぼしを防ぐことができる。

【0142】

また、上述した例では、本発明による無線端末装置上で“VoIP”アプリケーションが動作している様子について説明したが、これ以外にもテレビ電話やチャット、WEB ブラウザおよびインスタントメッセージなどの他のすべての通信アプリケーションでも同様に動作する。

【0143】

さらに、上述した例では、通信アプリケーションから動作モード決定部にパラメータを設定したが、動作モード決定部で予めパラメータを保持するようにしても良いし、また、データの通信内容を判別して、自動的に変更するようにしても良い。

【0144】

【発明の効果】

第一の効果は、通信アプリケーションが通信中であっても最大限、消費電力を抑えることができることにある。このため、無線端末装置の利用時間を延ばすこ

とが可能となる。

その理由は、通信中のアプリケーションによって、ビーコンの周期に依存しない間欠動作間隔を動的に変更できるためである。

【 0 1 4 5 】

第二の効果は、一つの無線基地局にリアルタイム性の要求される V o I P のような通信アプリケーションが動作している無線端末装置が複数ある場合に起こりやすいビーコン直後に送信データが集中することを低減することができることにある。このため、リアルタイム性が必要な音声通話などでの音声品質の悪化を防ぐことができる。

その理由は、無線基地局に自宛のパケットがバッファしたことを知らせるためにビーコンをキーとした方法では、無線基地局に複数の無線端末装置が接続されている場合に、ビーコン直後に集中して P S - P o l l を出そうとすることによって、衝突が起こりやすくなってしまいが、本発明による間欠動作間隔は、無線端末装置での送信データの発生タイミングによるため衝突の起きる可能性を低減することができるので、データ送信時の待ち時間を減らすことができるからである。

【 0 1 4 6 】

第三の効果は、一つの無線基地局に接続している無線端末装置が複数ある場合、各無線端末装置はそれぞれ異なる間欠動作を行うことができる。このため、同じ無線基地局に接続している他の無線端末装置の影響を受けずに、間欠動作間隔を変更することができる。

その理由は、本発明の間欠動作で動作中の間欠動作間隔を無線端末装置側の設定のみで無線基地局によらず自由に変更できるためである。

【 0 1 4 7 】

第四の効果は、特別の無線基地局が不要であるということである。このため、現在多く普及している無線基地局をそのまま使用することができる。

その理由は、本発明の間欠動作で動作中の間欠動作間隔を無線端末装置側の設定のみで無線基地局によらず自由に変更できるためである。

【 0 1 4 8 】

第五の効果は、通常のDTIM付きビーコンに同期した間欠受信モードで動作するよりも、本発明の間欠動作で動作することで、通信中のパケット遅延を抑えることができることにある。このため、リアルタイム性が必要な音声通話などでの音声品質の悪化を防ぐことができる。

その理由は、ビーコンをキーにして無線基地局に対してPS-Pollを送信する前に、多くの場合、無線端末装置側からPS-Pollを送信するために、早く自宛のパケットを受信することができるためである。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施例 1 の送受信のタイミングチャートである。

【図 2】

実施例 1 の無線ネットワークシステム構成図である。

【図 3】

実施例 1 の無線端末装置の機能から見た構成図である。

【図 4】

その動作のフローチャートである。

【図 5】

本発明の実施例 2 における通信制御部の動作の一部を示したフローチャートである。

【図 6】

本発明の本実施例 3 における通信制御部の動作の一部を示したフローチャートである。

【図 7】

実施例 3 において、リアルタイム要求有り時の通信制御部の動作の詳細を示すフローチャートである。

【図 8】

本発明の実施例 4 の無線端末装置の機能から見た構成図である。

【図 9】

図 8 中の通信中アプリケーション記憶部およびパラメータ記憶部の記憶形態を

示す図である。

【図 10】

実施例 4 において、通信アプリケーションから、リアルタイム要求の有り／無しを決定するまでの流れを示すフローチャートである。

【図 11】

本発明の実施例 6 の無線端末装置の機能から見た構成図である。

【図 12】

図 11 中のパラメータ制限値記憶部の記憶形態を示す図である。

【図 13】

実施例 6 の動作の一部を示したフローチャートである。

【図 14】

先行技術における送受信のタイミングチャートである。

【符号の説明】

- 100 無線基地局
- 110、120 無線端末装置
- 130 端末装置
- 300 通信アプリケーション部
- 310 動作モード決定部
- 320 PS-Poll 送信タイミング記憶部
- 330 タイマ制御部
- 340 電源制御部
- 350 通信制御部
- 360 無線通信インタフェース部
- 311 通信中アプリケーション記憶部
- 312 パラメータ記憶部
- 313 タイマ値記憶部
- 314 Wake-Up タイマ値
- 315 IFS タイマ値
- 316 ランダムバックオフ範囲

3 1 7 アプリケーション通信管理制御部

3 1 8 パラメータ決定部

5 0 0 バッテリ残量検出部

5 1 0 パラメータ制限値記憶部

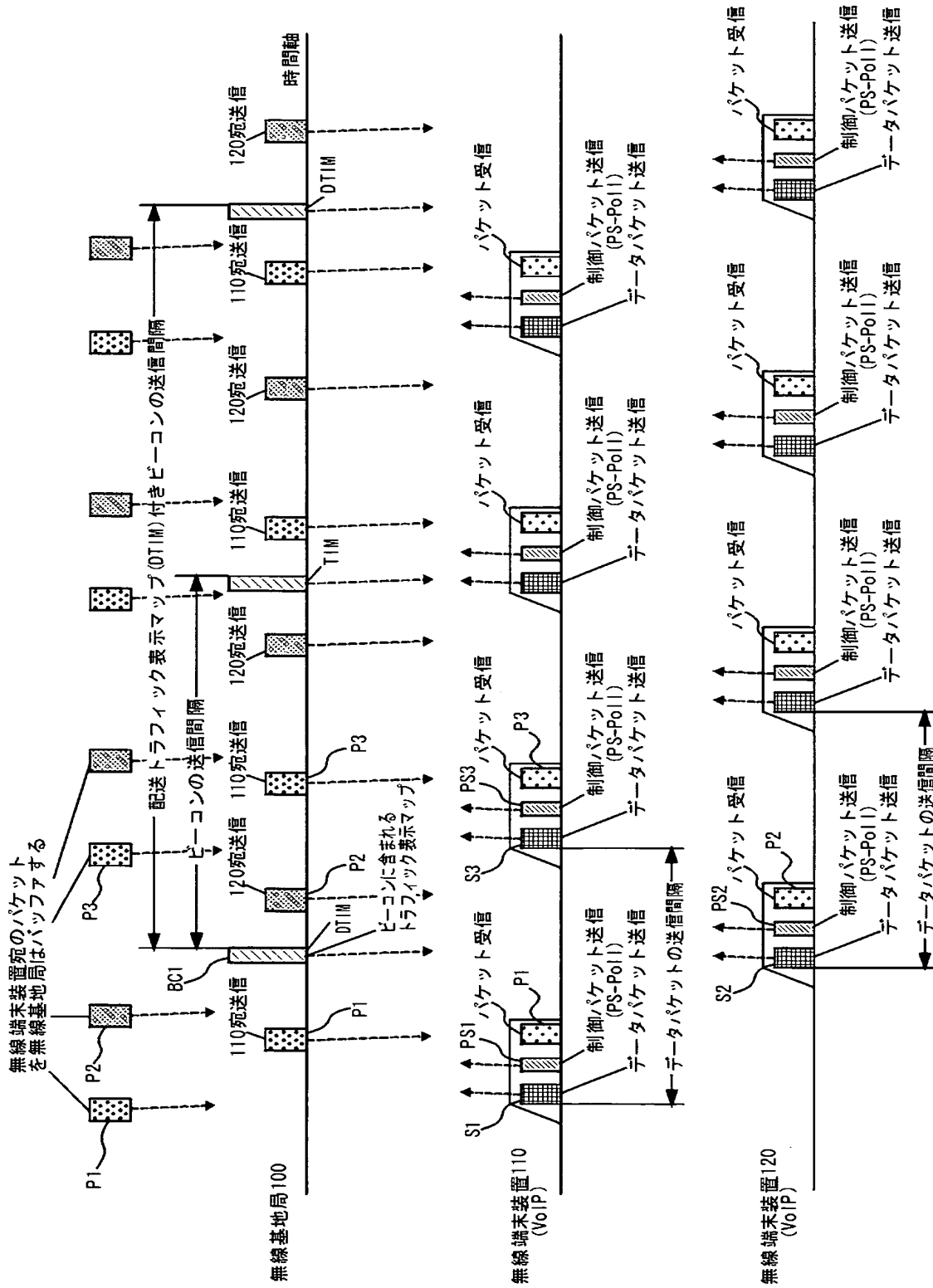
5 2 0 ・ 5 3 0 バッテリ残量の割合

5 2 1 ・ 5 3 1 省電力の割合の制限値

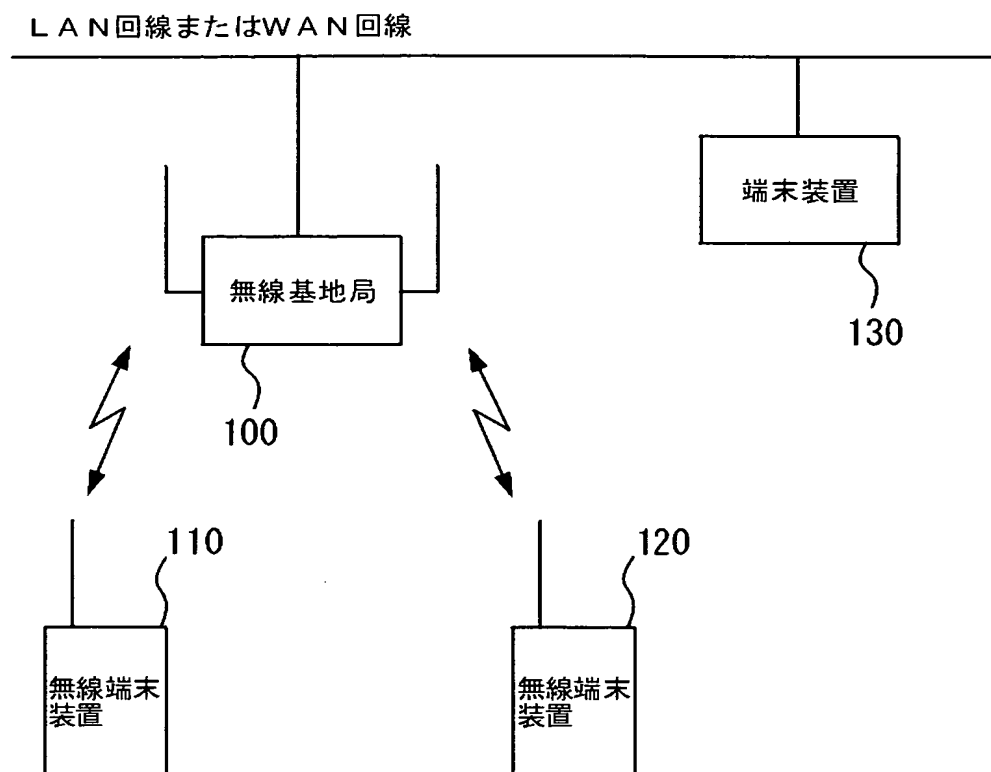
【書類名】

図面

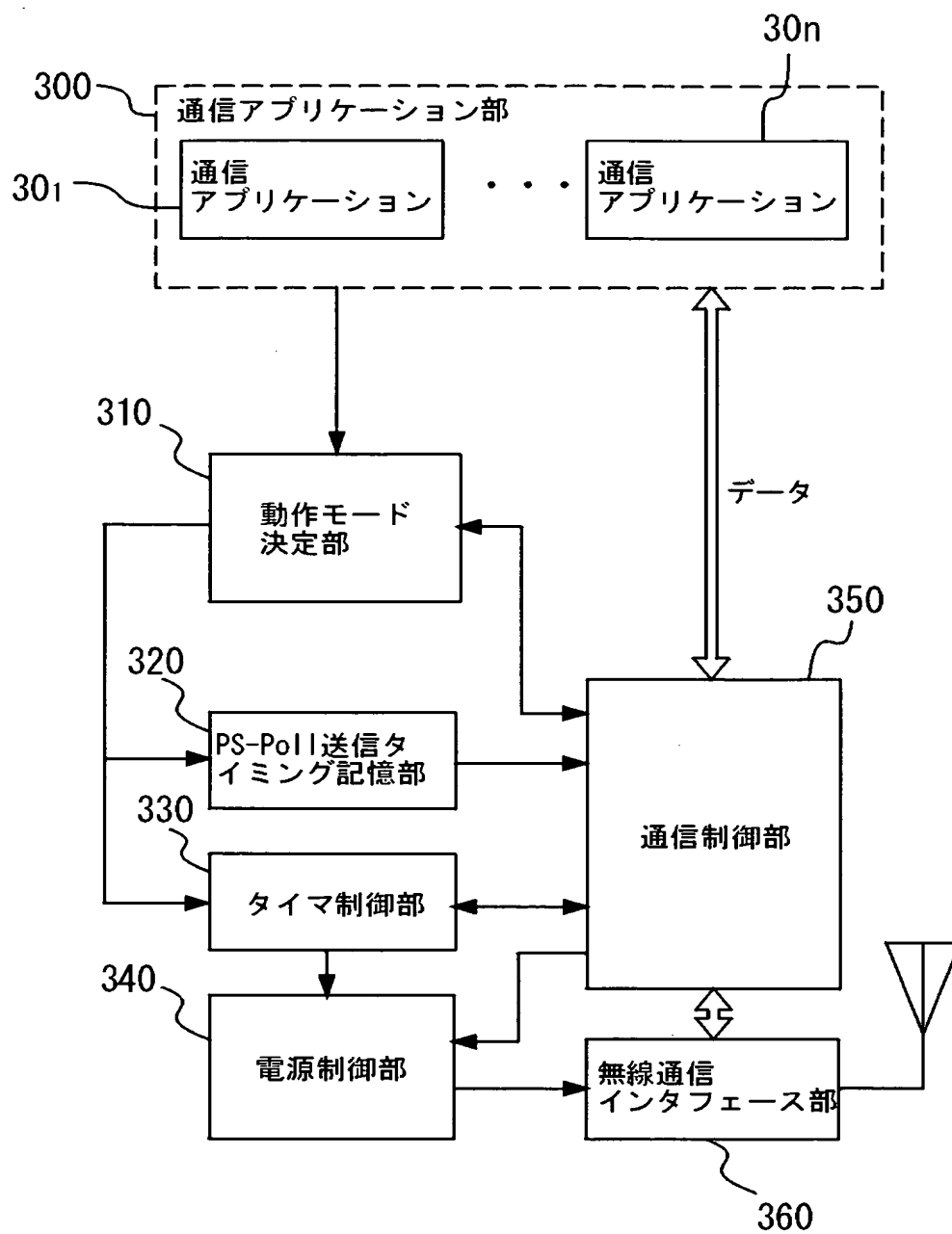
【図1】



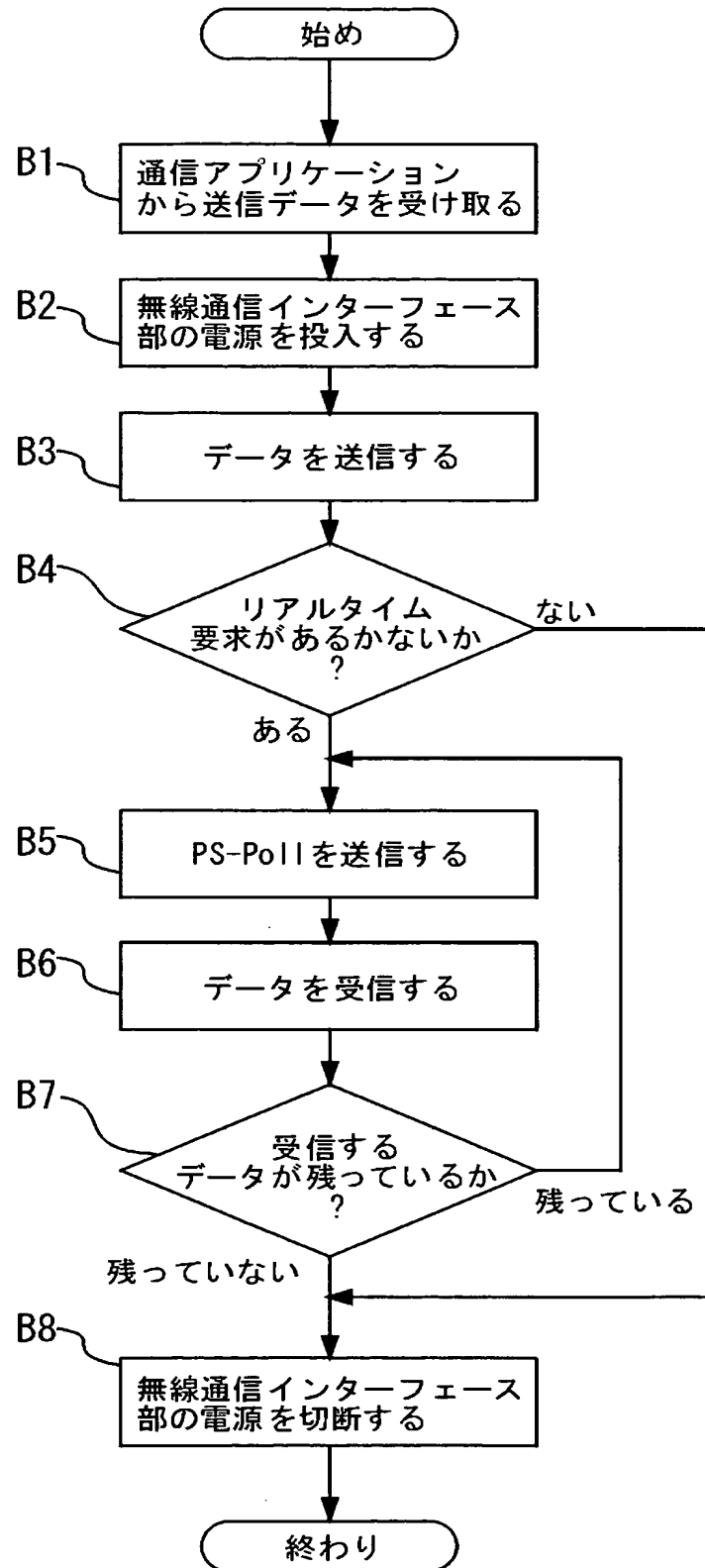
【図 2】



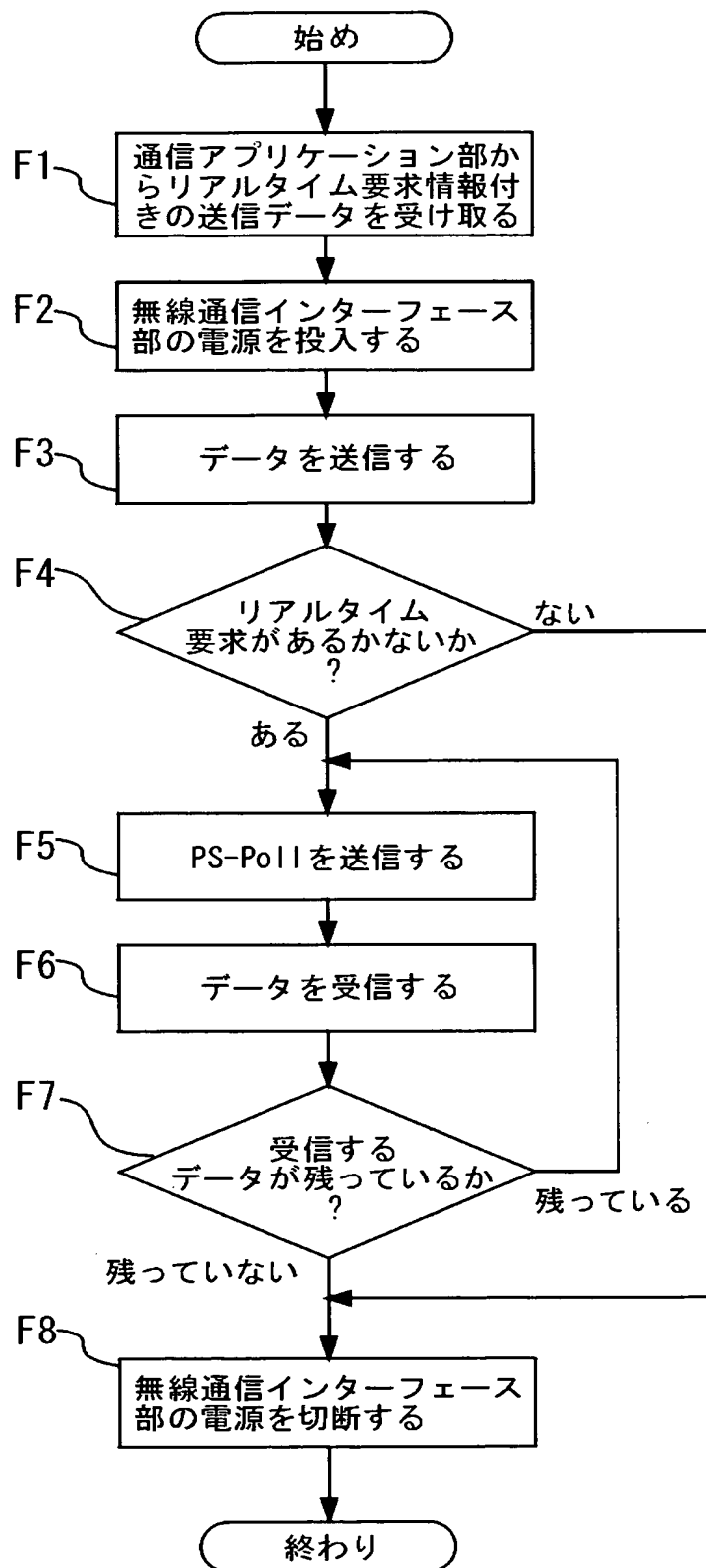
【図 3】



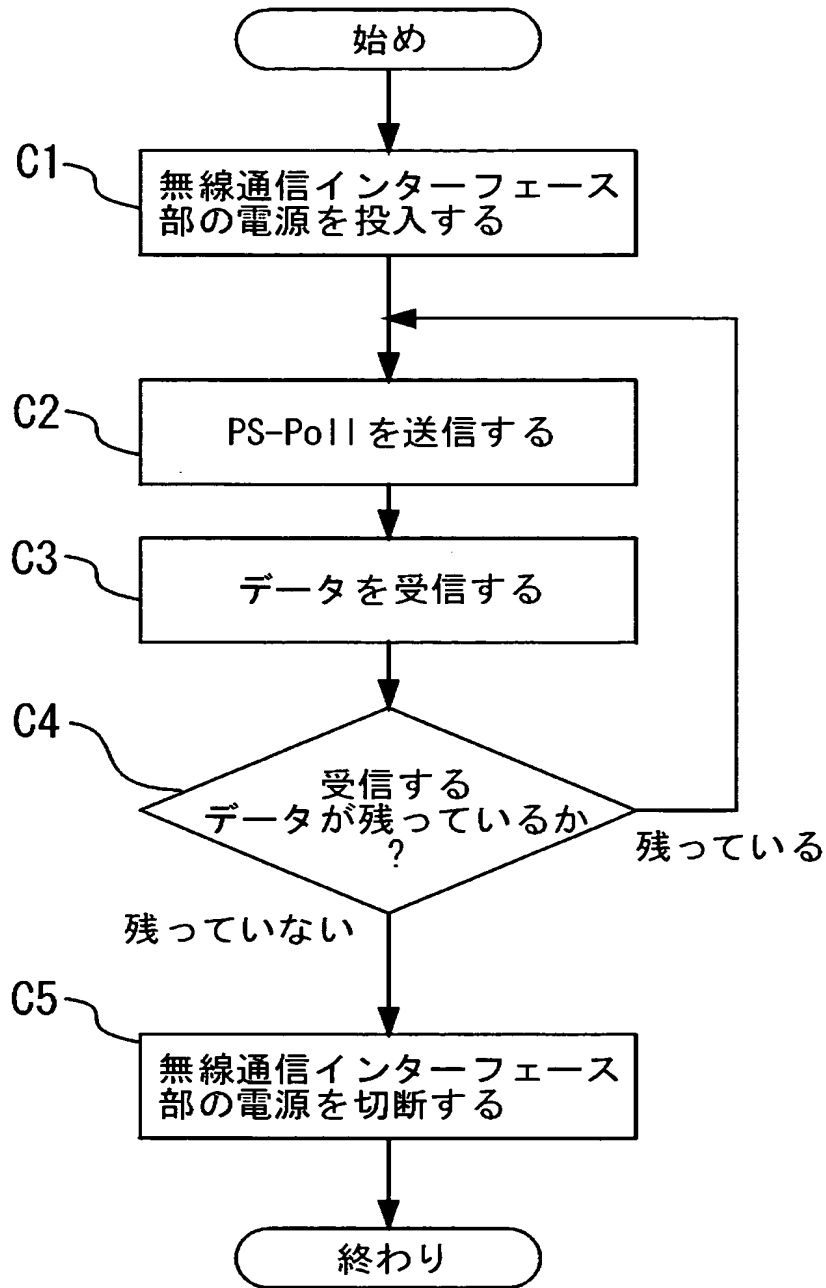
【図 4】



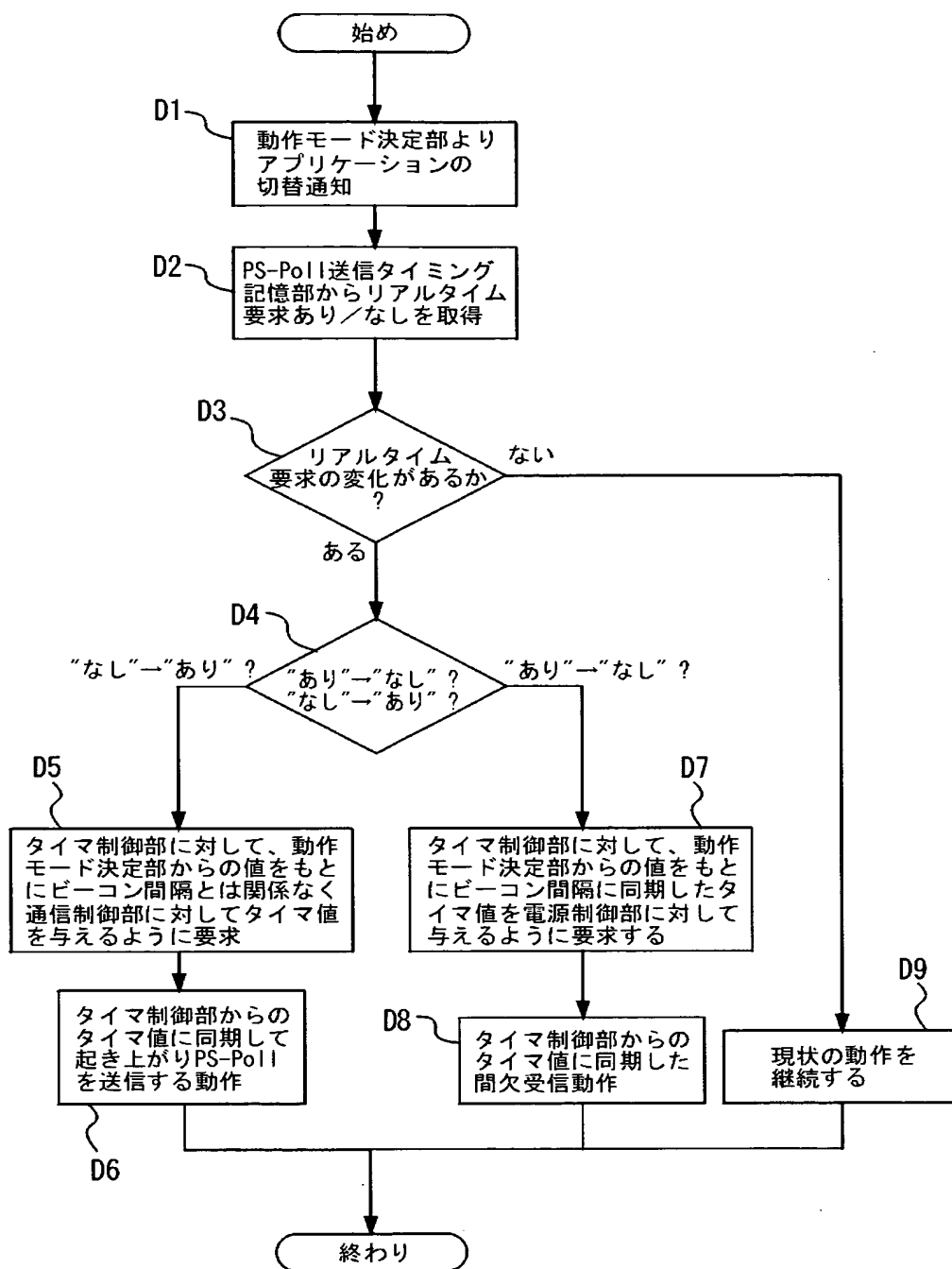
【図 5】



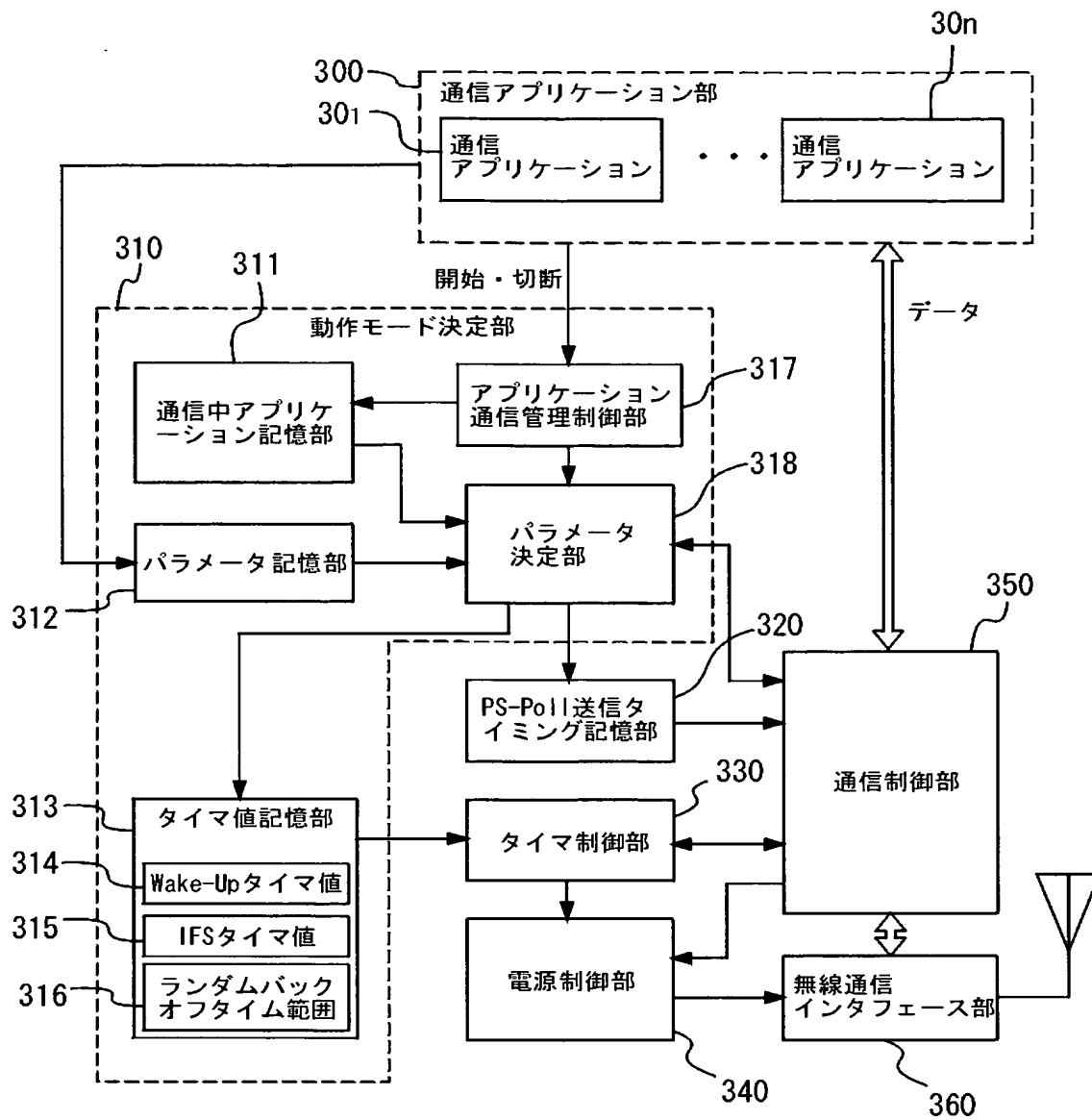
【図 6】



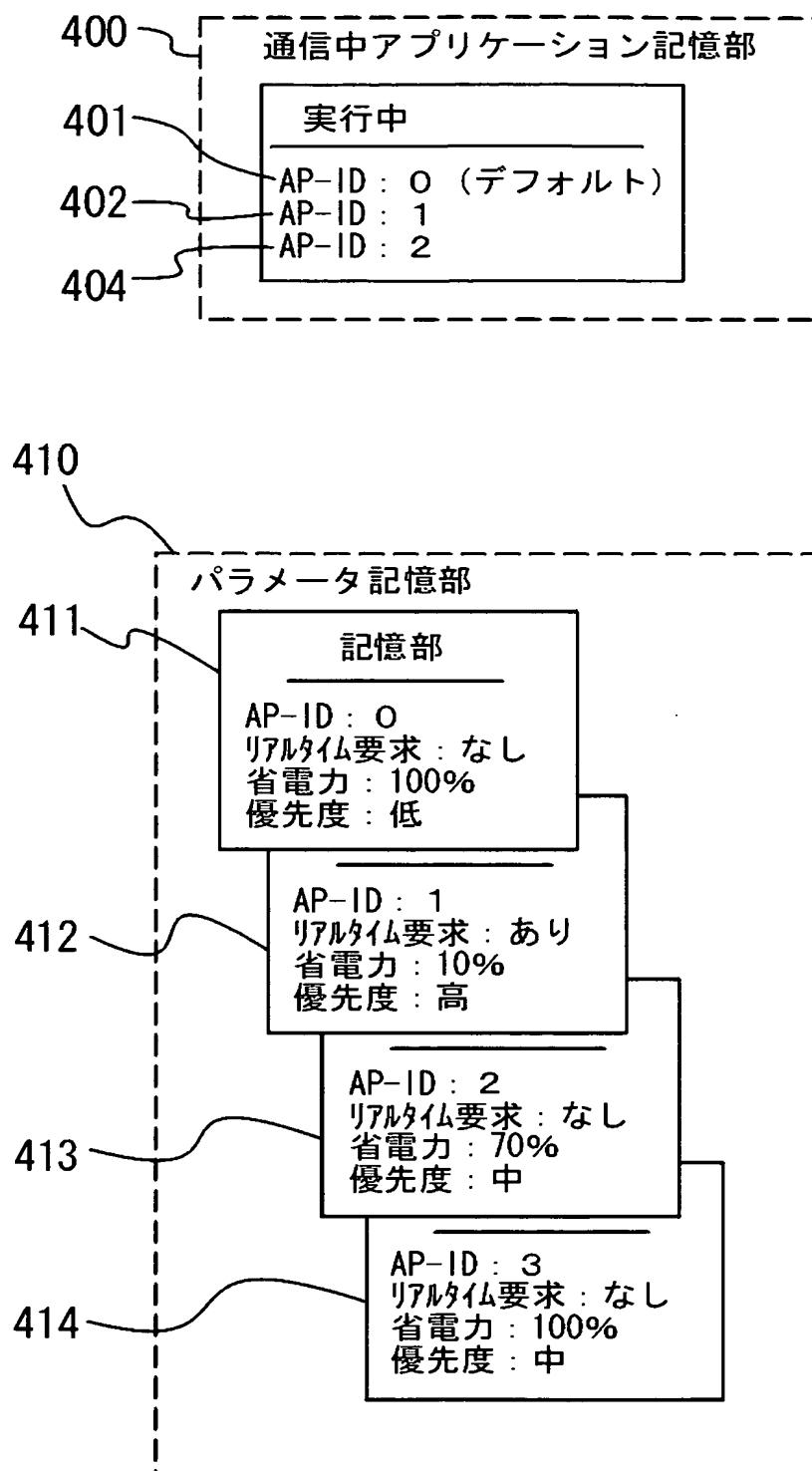
【図 7】



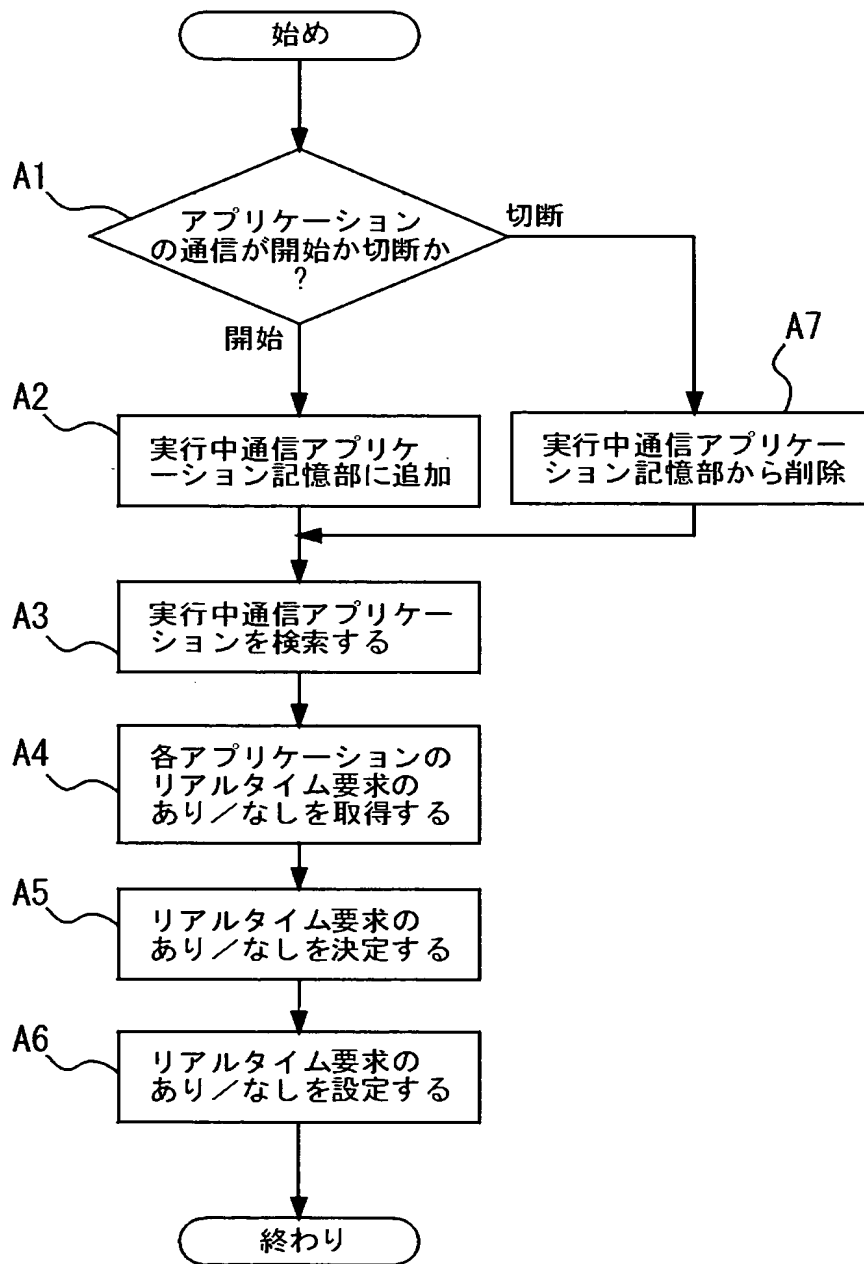
【図 8】



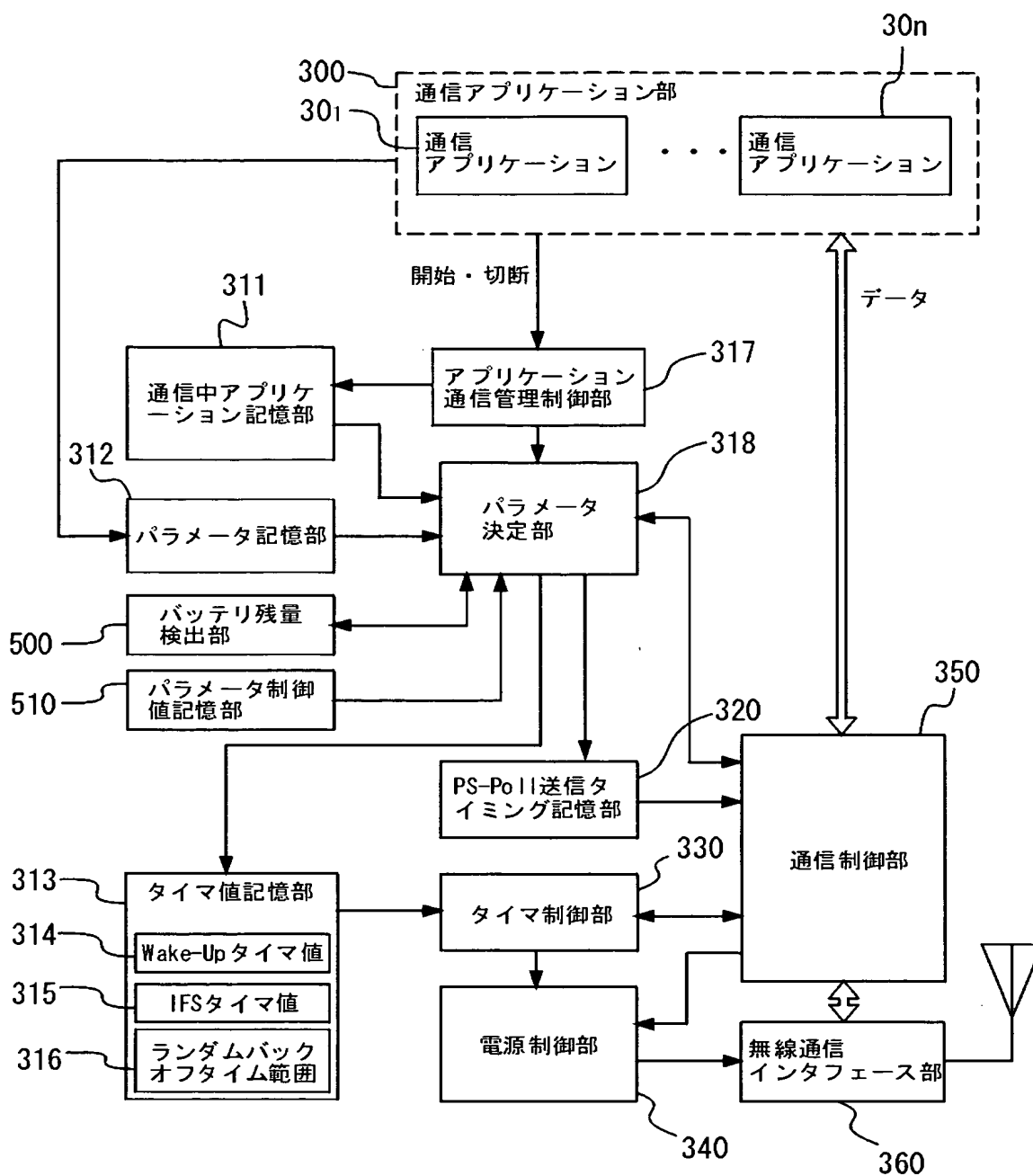
【図 9】



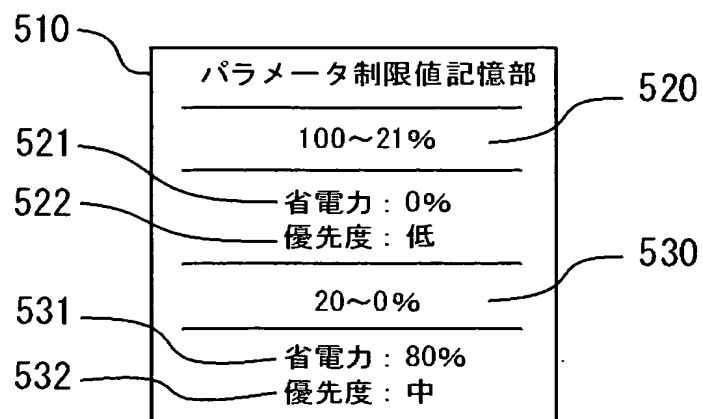
【図 10】



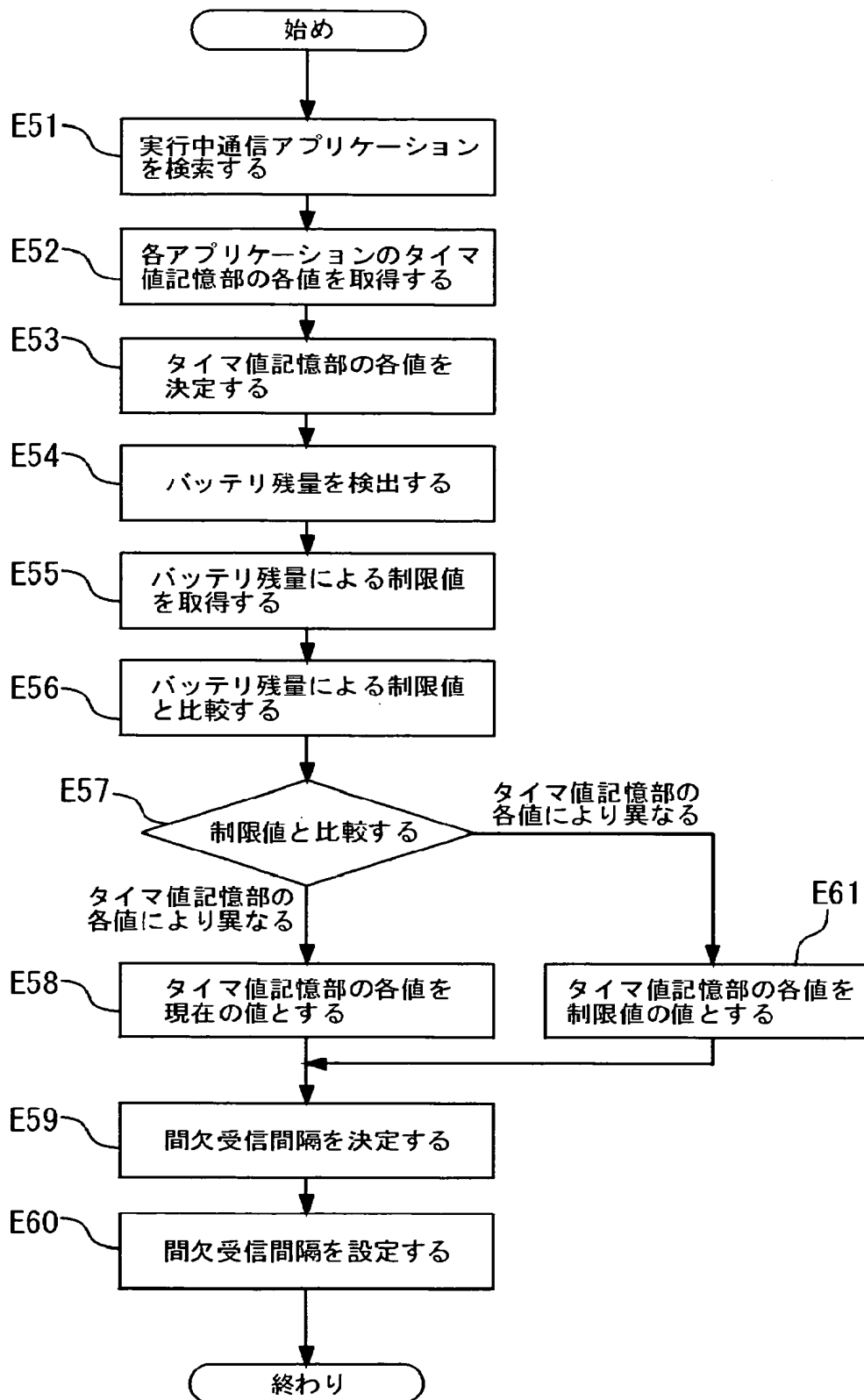
【図 11】



【図 12】



【図 13】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 無線端末装置の省電力化や、音声通信などのリアルタイム性が要求される通信アプリケーションの通信品質の向上、および複数の無線端末装置が存在する場合に起こりやすい送信待機時間の低減をとともに図る。

【解決手段】 通信アプリケーション部 3 0 0 からの通信アプリケーションのリアルタイム要求の有り無しを動作モード決定部 3 1 0 で判断し、リアルタイム要求の有りの場合は、無線基地局に対して配送を促す制御パケットである P S - P o l l を送信し、通信制御部 3 5 0 に対し無線インターフェース部 3 6 0 の電源を投入させて無線基地局にバッファされているパケットを P S - P o l l にしたがつて受信し、リアルタイム要求の無しの場合には、通信制御部 3 5 0 に対し無線インターフェース部 3 6 0 の電源を切断させて無線基地局からのビーコンにしたがつた間欠受信動作を行う。

【選択図】 図 3

特願 2 0 0 3 - 0 4 6 9 9 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [0 0 0 0 0 4 2 3 7]

| | |
|----------|---------------------|
| 1. 変更年月日 | 1 9 9 0 年 8 月 2 9 日 |
| [変更理由] | 新規登録 |
| 住 所 | 東京都港区芝五丁目 7 番 1 号 |
| 氏 名 | 日本電気株式会社 |